



# 2022年度 第2四半期（中間） 決算説明会【電話会議】

## コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO 小川 啓之

取締役常務執行役員CFO 堀越 健

常務執行役員経営管理部長 森下 正敏

2022年10月31日（月）

# 目次

## I.2022年度 第2四半期（中間）決算の概要 <P3-P13>

- P4-P6 : 2022年度 第2四半期（7-9月）の概況
- P7-P8 : 2022年度 上期（4-9月）の概況
- P9-P10 : <建設機械・車両> 2022年度 上期（4-9月）の状況（概況・セグメント売上高・利益）
- P11 : <リテールファイナンス> 2022年度 上期（4-9月）の状況
- P12 : <産業機械他> 2022年度 上期（4-9月）の売上高とセグメント利益
- P13 : 連結貸借対照表

## II.2022年度の業績見通し <P14-P29>

- P15-P16 : 2022年度の見通し（概要・セグメント売上高・利益）
- P17-P18 : <建設機械・車両> 2022年度の売上高とセグメント利益の見通し
- P19 : <リテールファイナンス> 2022年度の見通し
- P20 : <産業機械他> 2022年度の売上高とセグメント利益の見通し
- P21-P26 : <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し（全体および地域別）
- P27-P28 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と売上高の見通し
- P29 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

## 参考資料 <P30-P38>

- P31-P35 : 四半期毎の状況
- P36-P38 : BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕

# I .2022年度 第2四半期（中間）決算の概要

# 2022年度 第2四半期（7-9月）の概況

- ・ 連結売上高は前年同期比+32.9%増収の8,549億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+58.4%増益の1,181億円、売上高営業利益率は+2.2ポイント上昇し13.8%。
- ・ 純利益は前年同期比+57.2%増益の821億円。

金額単位：億円	2021年7-9月 ¥110.3/USD ¥130.6/EUR ¥81.4/AUD	2022年7-9月 ¥136.1/USD ¥139.3/EUR ¥93.9/AUD	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	6,431	8,549	+2,118	+32.9%
セグメント利益	739	1,184	+445	+60.2%
その他の営業収益（▲費用）	6	▲ 3	▲ 9	-
営業利益	745	1,181	+435	+58.4%
売上高営業利益率	11.6%	13.8%	+2.2ポイント	-
その他の収益（▲費用）	5	▲ 28	▲ 33	-
税引前純利益	751	1,153	+402	+53.6%
当社株主に帰属する当期純利益	522	821	+299	+57.2%

# 2022年度 第2四半期（7-9月）の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比+33.8%増収の7,909億円。セグメント利益は前年同期比+60.4%増益の1,042億円。セグメント利益率は+2.2ポイント上昇し13.2%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比+30.4%増収の216億円。セグメント利益は前年同期比+54.2%増益の71億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比+20.4%増収の492億円。セグメント利益は前年同期比+69.6%増益の75億円。

□ : 利益率 ( ) : 外部顧客向け売上高

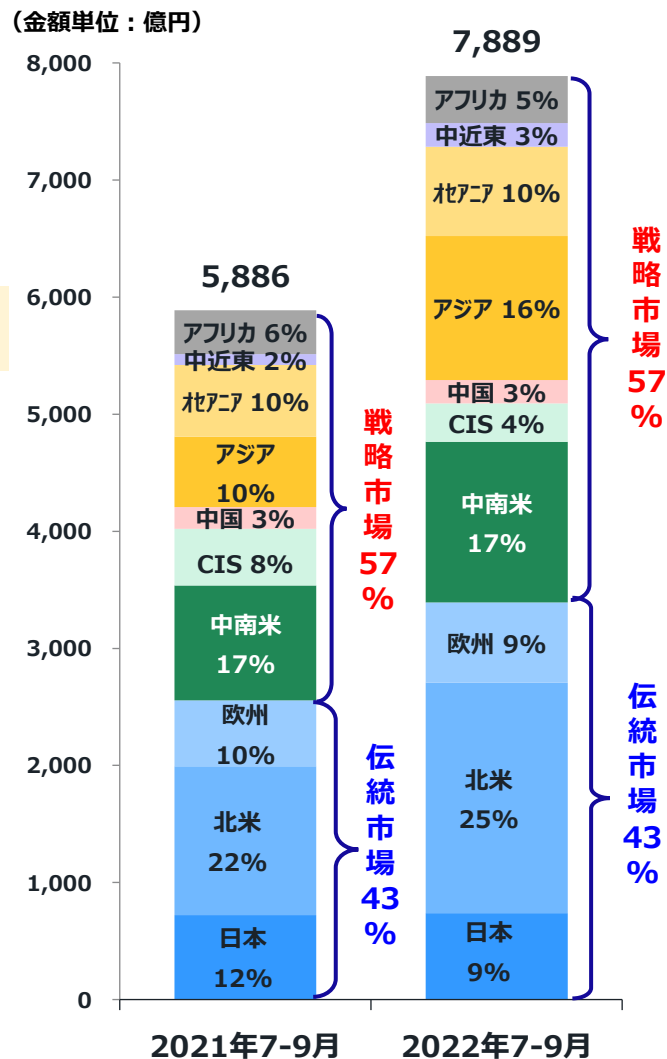
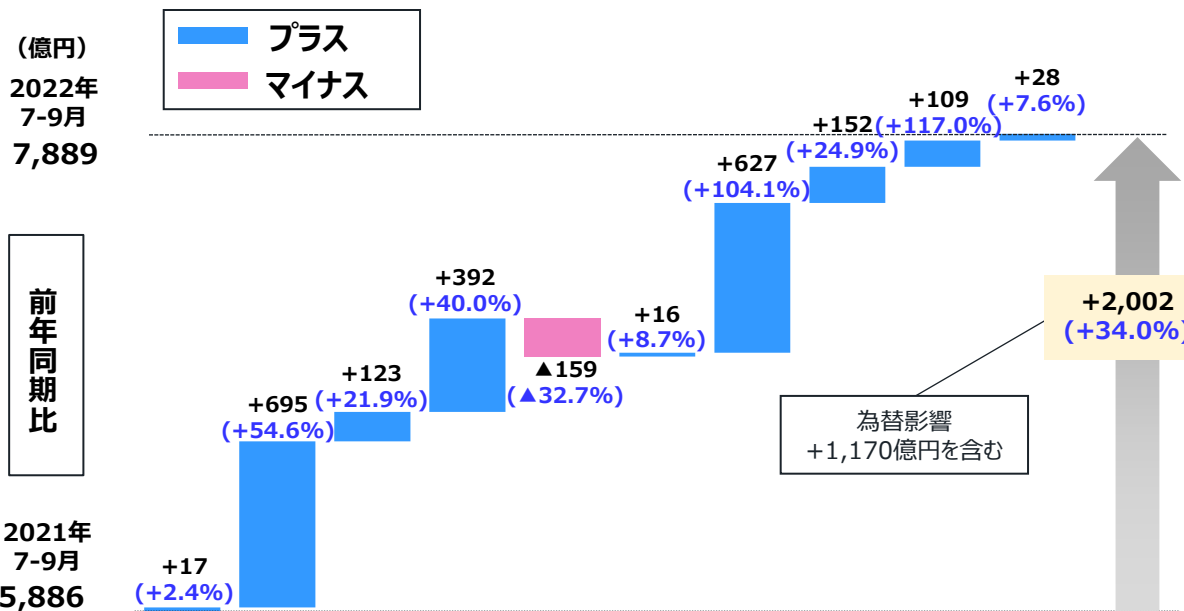
金額単位：億円	2021年7-9月		2022年7-9月		前年同期比			
					増減		増減率	
売上高	6,431		8,549		+2,118		+32.9%	
建設機械・車両	(5,886)	5,910	(7,889)	7,909	(+2,002)	+1,999	(+34.0%)	+33.8%
リテールファイナンス	(141)	165	(172)	216	(+31)	+50	(+21.6%)	+30.4%
産業機械他	(404)	409	(489)	492	(+85)	+83	(+21.1%)	+20.4%
消去	▲ 53		▲ 67		▲ 14		-	
セグメント利益	□ 11.5%	739	□ 13.8%	1,184	□ +2.3ポイント	+445	+60.2%	
建設機械・車両	□ 11.0%	650	□ 13.2%	1,042	□ +2.2ポイント	+392	+60.4%	
リテールファイナンス	□ 28.0%	46	□ 33.1%	71	□ +5.1ポイント	+25	+54.2%	
産業機械他	□ 10.8%	44	□ 15.2%	75	□ +4.4ポイント	+31	+69.6%	
消去または全社	▲ 1		▲ 4		▲ 3		-	

## 各セグメントの状況：

- 建設機械・車両  
物量増、為替差および販売価格のプラス影響等により増収、増益。
- リテールファイナンス  
主に為替のプラス影響により増収、貸倒引当金の減少等により増益。
- 産業機械他  
自動車産業向けは、中・大型プレスの上売が減少したものの、半導体産業向けエキシマレーザー関連の上売が好調であったこと等により増収、増益。

# <建設機械・車両> 2022年度 第2四半期（7-9月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+34.0%増収の7,889億円。
- ・CISを除くすべての地域で増加。北米、アジア、中南米で大きく増加。
- ・伝統市場の比率は43%、戦略市場の比率は57%。



(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2021年 7-9月	722	1,273	563	980	485	184	603	610	93	374	5,886
2022年 7-9月	739	1,968	686	1,372	326	200	1,230	762	203	402	7,889
増減	+17	+695	+123	+392	▲159	+16	+627	+152	+109	+28	+2,002

伝統市場

戦略市場

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

# 2022年度 上期（4-9月）の概況

- ・ 連結売上高は前年同期比+25.3%増収の1兆6,187億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+55.3%増益の2,116億円、売上高営業利益率は+2.5ポイント上昇し13.1%。
- ・ 純利益は前年同期比+74.5%増益の1,626億円。

金額単位：億円	2021年/上期 ¥110.1/USD ¥131.1/EUR ¥83.0/AUD	2022年/上期 ¥131.6/USD ¥138.1/EUR ¥92.9/AUD	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	12,914	16,187	+3,273	+25.3%
セグメント利益	1,348	2,128	+779	+57.8%
その他の営業収益（▲費用）	15	▲ 11	▲ 26	-
営業利益	1,363	2,116	+754	+55.3%
売上高営業利益率	10.6%	13.1%	+2.5ポイント	-
その他の収益（▲費用）	2	161	+159	-
税引前純利益	1,365	2,278	+913	+66.8%
当社株主に帰属する当期純利益	931	1,626	+694	+74.5%
1株当たり配当金（円）	40円	64円	+24円	

# 2022年度 上期（4-9月）の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比+27.1%増収の1兆5,062億円。セグメント利益は前年同期比+58.1%増益の1,875億円。セグメント利益率は+2.4ポイント上昇し12.4%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比+12.2%増収の415億円。セグメント利益は前年同期比+89.3%増益の149億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比+2.5%増収の837億円。セグメント利益は前年同期比+27.7%増益の110億円。

□ : 利益率 ( ): 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2021年/上期		2022年/上期		前年同期比			
					増減		増減率	
<b>売上高</b>	12,914		16,187		+3,273		+25.3%	
建設機械・車両	(11,816)	11,854	(15,025)	15,062	(+3,209)	+3,208	(+27.2%)	+27.1%
リテールファイナンス	(289)	370	(335)	415	(+45)	+45	(+15.7%)	+12.2%
産業機械他	(809)	817	(828)	837	(+19)	+20	(+2.4%)	+2.5%
消去	▲ 126		▲ 127		▲ 0		-	
<b>セグメント利益</b>	□ 10.4%	1,348	□ 13.1%	2,128	□ +2.7ポイント	+779	+57.8%	
建設機械・車両	□ 10.0%	1,186	□ 12.4%	1,875	□ +2.4ポイント	+689	+58.1%	
リテールファイナンス	□ 21.2%	78	□ 35.8%	149	□ +14.6ポイント	+70	+89.3%	
産業機械他	□ 10.5%	86	□ 13.1%	110	□ +2.6ポイント	+24	+27.7%	
消去または全社	▲ 2		▲ 6		▲ 4		-	

## 各セグメントの状況：

### ■ 建設機械・車両

物量増、為替差および販売価格のプラス影響等により増収、増益。

### ■ リテールファイナンス

前年同期に一部リース車を中古車として販売した影響があったものの、新規取組高の増加や為替のプラス影響等により増収、貸倒引当金の減少や為替のプラス影響により増益。

### ■ 産業機械他

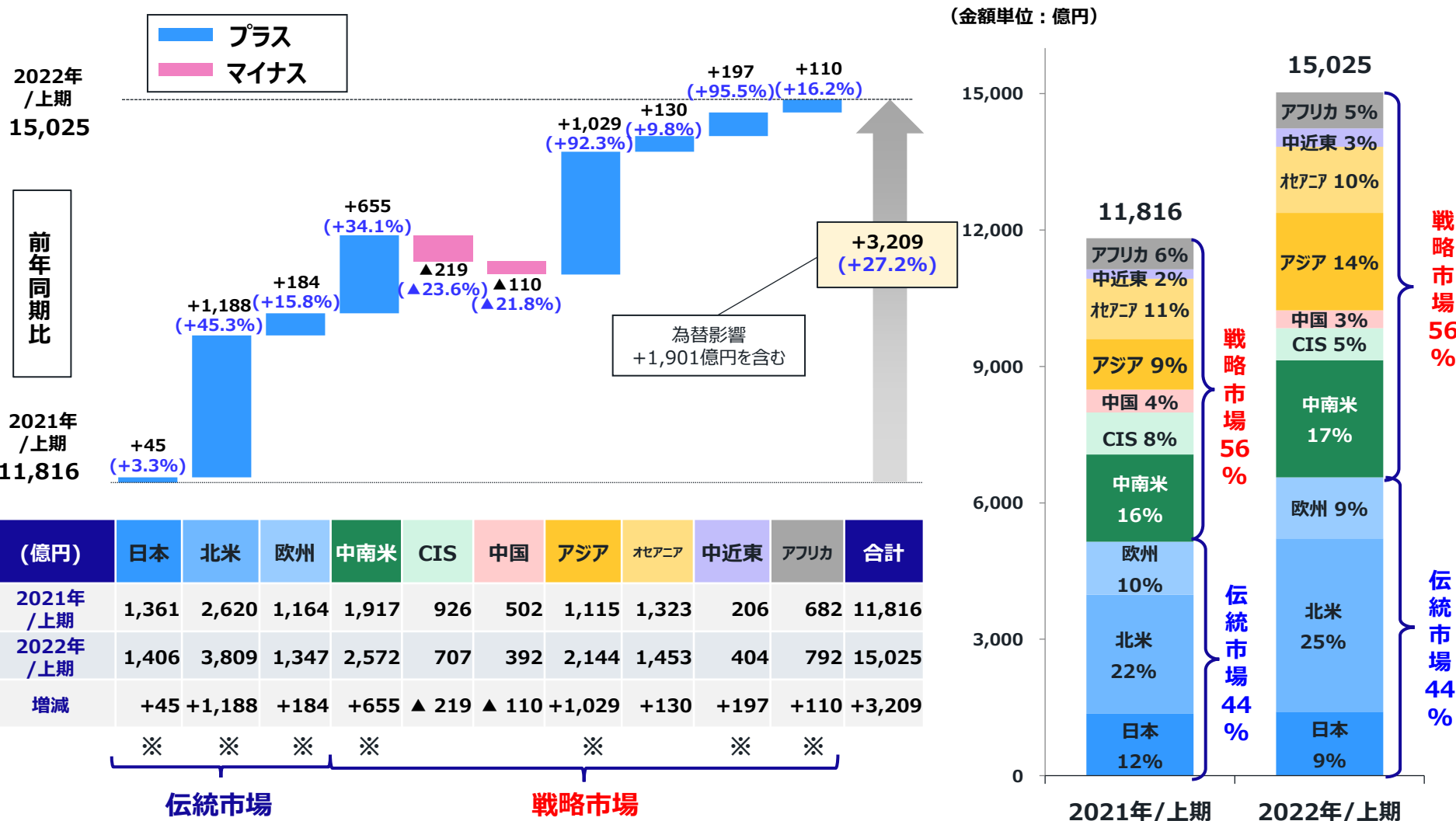
自動車産業向けは、中・大型プレスの売上が減少したことにより減収、減益。

半導体産業向けは、エキシマレーザー関連の売上が好調であったこと等により増収、増益。



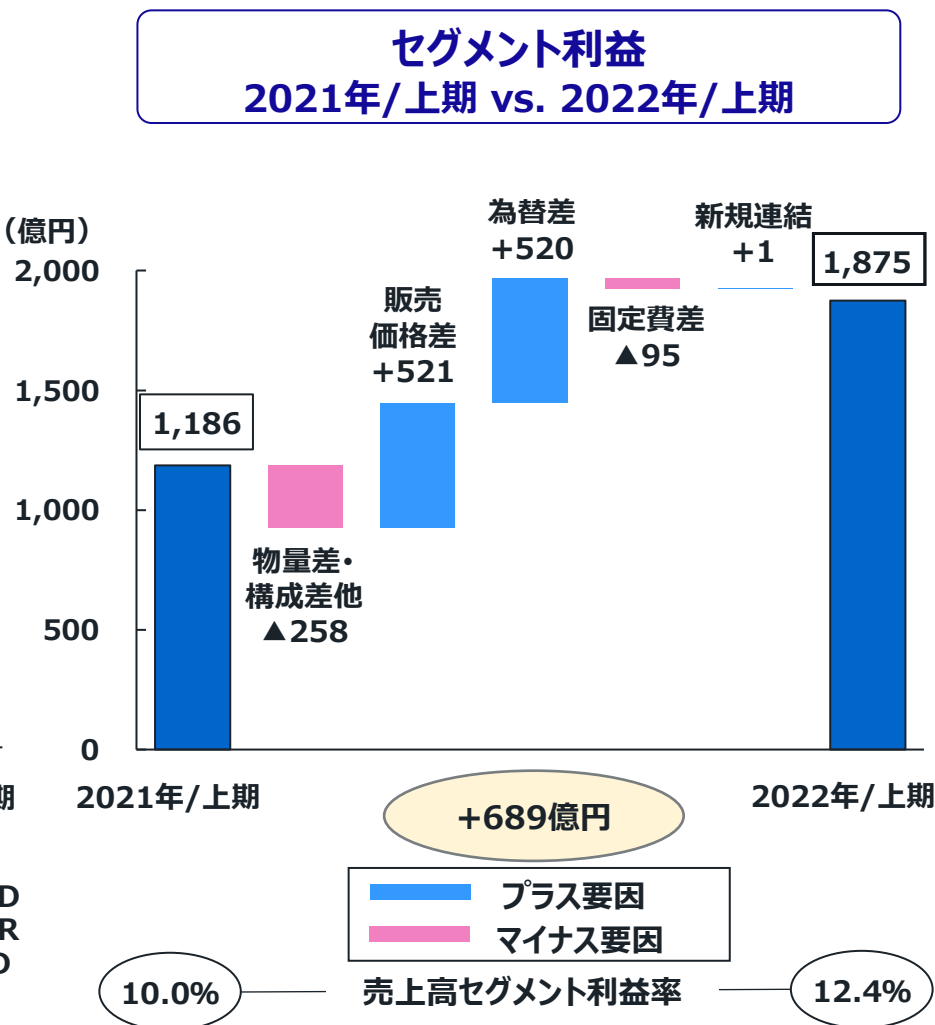
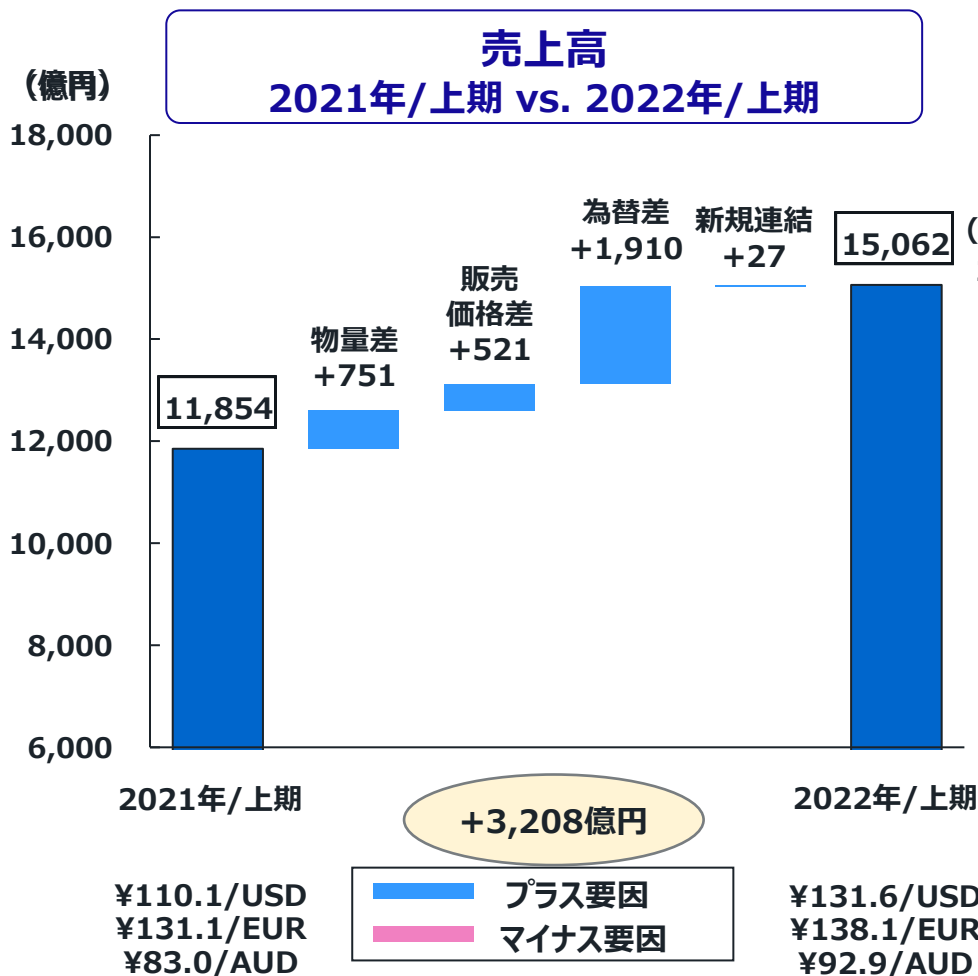
# <建設機械・車両> 2022年度 上期（4-9月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+27.2%増収の1兆5,025億円。
- ・CIS、中国を除くすべての地域で増加。北米、アジア、中南米で大きく増加。
- ・伝統市場の比率は44%、戦略市場の比率は56%。



# <建設機械・車両> 2022年度 上期（4-9月）の売上高とセグメント利益の増減要因

- ・売上高は、物量増、為替差および販売価格のプラス影響等により、前年同期比+3,208億円の増収。
- ・セグメント利益は、販売価格および為替のプラス影響等により、前年同期比+689億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比+2.4ポイント上昇し12.4%。

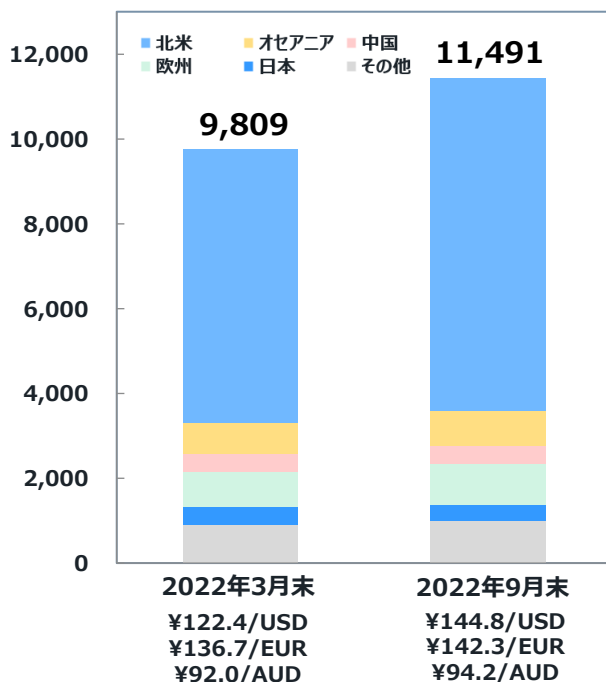


# <リテールファイナンス> 2022年度 上期 (4-9月) の状況

- ・資産は、主に為替の影響により、前年度末比+1,682億円の増加。
- ・新規取組高は、建設機械・車両の販売増に伴い、前年同期比+1,061億円の増加。
- ・売上高は、前年同期に一部リース車を中古車として販売した影響があったものの、新規取組高の増加や為替のプラス影響により前年同期比+45億円の増加。
- ・セグメント利益は、貸倒引当金の減少や為替のプラス影響等により、前年比+70億円の増益。

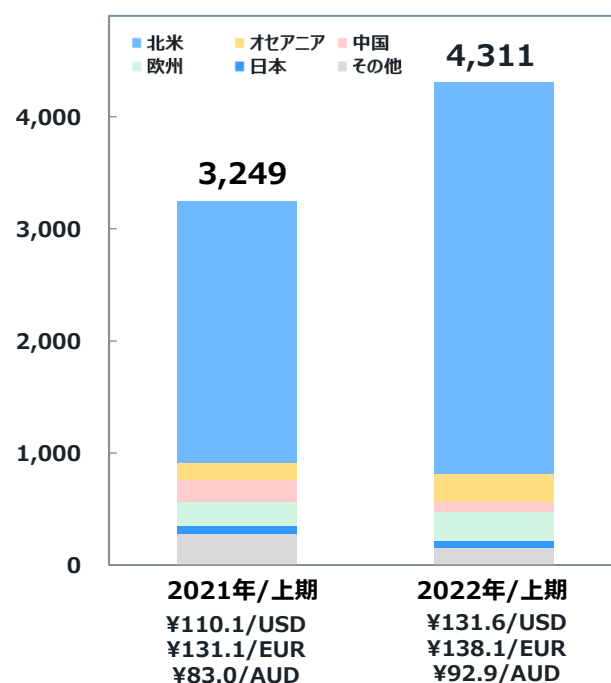
## 資産

2022年3月末 vs. 2022年9月末



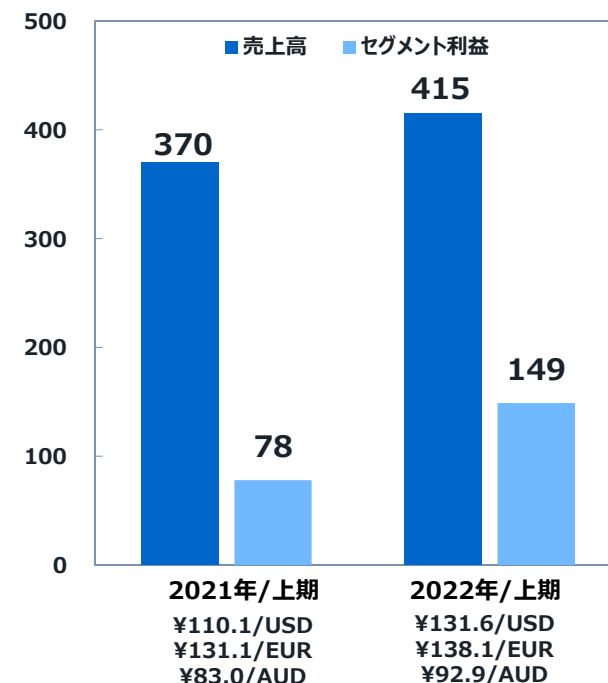
## 新規取組高

2021年/上期 vs. 2022年/上期



## 収益

2021年/上期 vs. 2022年/上期

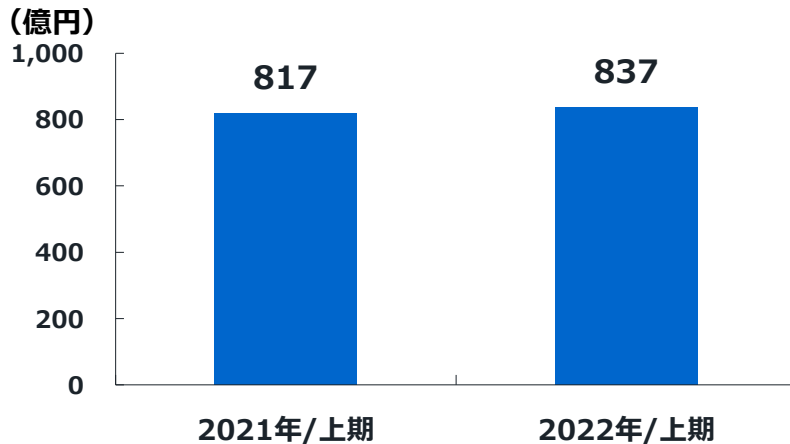


金額単位：億円	2022年3月末	2022年9月末	前年度末比
借入金	7,342	8,663	+1,320
ネットベースの借入金	7,315	8,527	+1,212
ネットD/Eレシオ	3.51	3.49	▲0.02ポイント

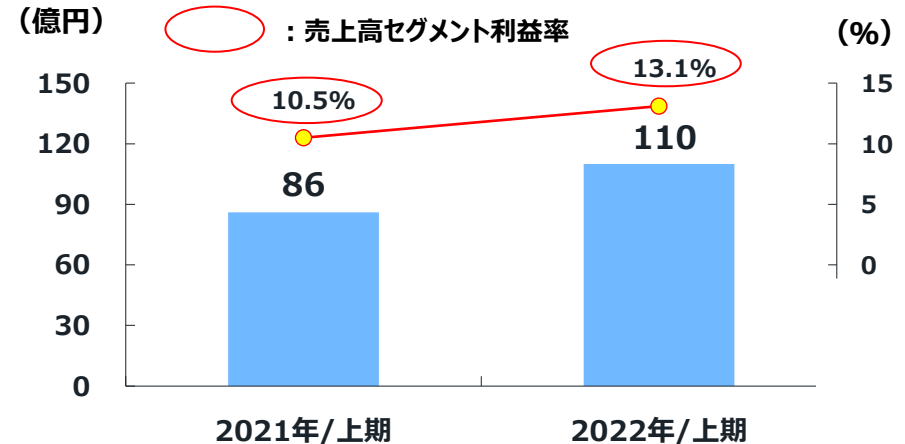
# <産業機械他> 2022年度 上期（4-9月）の売上高とセグメント利益

- ・売上高は前年同期比+2.5%増収の837億円、セグメント利益は前年同期比+27.7%増益の110億円。
- ・自動車産業向けは、中・大型プレスの上売が減少したことにより減収、減益。半導体産業向けは、エキシマレーザー関連の上売が好調で増収、増益。
- ・売上高セグメント利益率は13.1%。

**売上高**  
2021年/上期 vs. 2022年/上期



**セグメント利益**  
2021年/上期 vs. 2022年/上期



**売上高の内訳**

(億円)	2021年/上期	2022年/上期	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機	269	178	▲91	▲33.9%
コマツNTC	158	160	+1	+0.8%
ギガフォトン	246	288	+42	+17.1%
その他	144	212	+68	+47.4%
合計	817	837	+20	+2.5%

# 連結貸借対照表

- ・総資産は、主に為替の影響で、前年度末比+6,550億円増加の5兆25億円。
- ・建設機械・車両の需要増加に伴い棚卸資産が増加。
- ・株主資本比率は、前年度末比+0.1ポイント上昇し51.5%。

金額単位：億円 ○：ネットD/Eレシオ	2022年3月末 ¥122.4/USD ¥136.7/EUR ¥92.0/AUD	2022年9月末 ¥144.8/USD ¥142.3/EUR ¥94.2/AUD	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	3,167	3,216	+49
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	14,564	16,602	+2,037
棚卸資産	9,880	12,750	+2,870
有形固定資産	8,197	8,682	+485
その他資産	7,666	8,775	+1,109
<b>資産合計</b>	<b>43,475</b>	<b>50,025</b>	<b>+6,550</b>
支払手形・買掛金	3,390	3,561	+171
借入金・社債 [b]	9,474	11,706	+2,232
その他負債	7,049	7,636	+587
<b>負債合計</b>	<b>19,912</b>	<b>22,903</b>	<b>+2,990</b>
（株主資本比率）	（51.4%）	（51.5%）	（+0.1ポイント）
株主資本	22,325	25,772	+3,446
非支配持分	1,238	1,351	+114
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>43,475</b>	<b>50,025</b>	<b>+6,550</b>
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	○0.28 6,307	○0.33 8,490	+2,183
ネットD/Eレシオ（リテールファイナンス会社を除いた場合）	▲0.05	▲0.00	

## Ⅱ.2022年度の業績見通し

# 2022年度の業績見通し

- ・連結売上高は前年比+23.5%増収の3兆4,600億円（4月見通しから+4,600億円上方修正）。
- ・営業利益は前年比+38.8%増益の4,400億円（4月見通しから+940億円上方修正）。
- ・1株当たり配当金は128円（4月見通しから+32円の変更）。

下期為替の前提 1ドル:140円、1ユーロ:137円、1豪ドル:89.0円に見直し。

金額単位：億円	2021年度 (A) ¥112.1/USD ¥130.4/EUR ¥82.7/AUD	2022年度 (最新見通し) (B) ¥135.8/USD ¥137.5/EUR ¥91.0/AUD	2022年度 (4月見通し) ¥118.0/USD ¥129.0/EUR ¥88.0/AUD	前年比 (B) - (A)	
				増減	増減率
連結売上高	28,023	34,600	30,000	+6,577	+23.5%
セグメント利益	3,155	4,450	3,490	+1,295	+41.0%
その他の営業収益(▲費用)	15	▲ 50	▲ 30	▲ 65	-
営業利益	3,170	4,400	3,460	+1,230	+38.8%
売上高営業利益率	11.3%	12.7%	11.5%	+1.4 ㊦ ㊦	-
その他の収益(▲費用)	76	▲ 80	▲ 125	▲ 156	-
税引前純利益	3,246	4,320	3,335	+1,074	+33.1%
当社株主に帰属する当期純利益	2,249	2,980	2,260	+731	+32.5%
ROE	10.9%	12.4%	10.0%	+1.5 ㊦ ㊦	
1株当たり配当金 (円)	96円	128円	96円	+32円	
連結配当性向	40.3%	40.6%	40.2%		

# 2022年度の各セグメント売上高と利益の見通し

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比+25.2%増収の3兆2,100億円。  
セグメント利益は前年比+45.8%増益の4,020億円。セグメント利益率は+1.7ポイント上昇し12.5%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比+16.2%増収の835億円。セグメント利益は前年比+45.4%増益の250億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+1.9%増収の1,920億円。セグメント利益は前年比+1.8%増益の230億円。

□ : 利益率 ( ) : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2021年度 (A)		2022年度 (最新見通し) (B)		2022年度 (4月見通し)		前年比 (B) - (A)	
							増減	増減率
売上高	28,023		34,600		30,000		+6,577 +23.5%	
建設機械・車両	(25,589) 25,644	(32,045) 32,100	(27,670) 27,790			(+6,457) +6,457	(+25.2%) +25.2%	
リテールファイナンス	(578) 719	(665) 835	(530) 670			(+87) +116	(+15.0%) +16.2%	
産業機械他	(1,857) 1,884	(1,890) 1,920	(1,800) 1,830			(+33) +36	(+1.8%) +1.9%	
消去	▲ 223		▲ 255		▲ 290		▲ 33 -	
セグメント利益	11.3% 3,155	12.9% 4,450	11.6% 3,490			+1.6ポイント +1,295	+41.0%	
建設機械・車両	10.8% 2,758	12.5% 4,020	11.4% 3,180			+1.7ポイント +1,263	+45.8%	
リテールファイナンス	23.9% 172	29.9% 250	23.1% 155			+6.0ポイント +78	+45.4%	
産業機械他	12.0% 226	12.0% 230	10.9% 200			+0.0ポイント +4	+1.8%	
消去または全社	▲ 0		▲ 50		▲ 45		▲ 50 -	

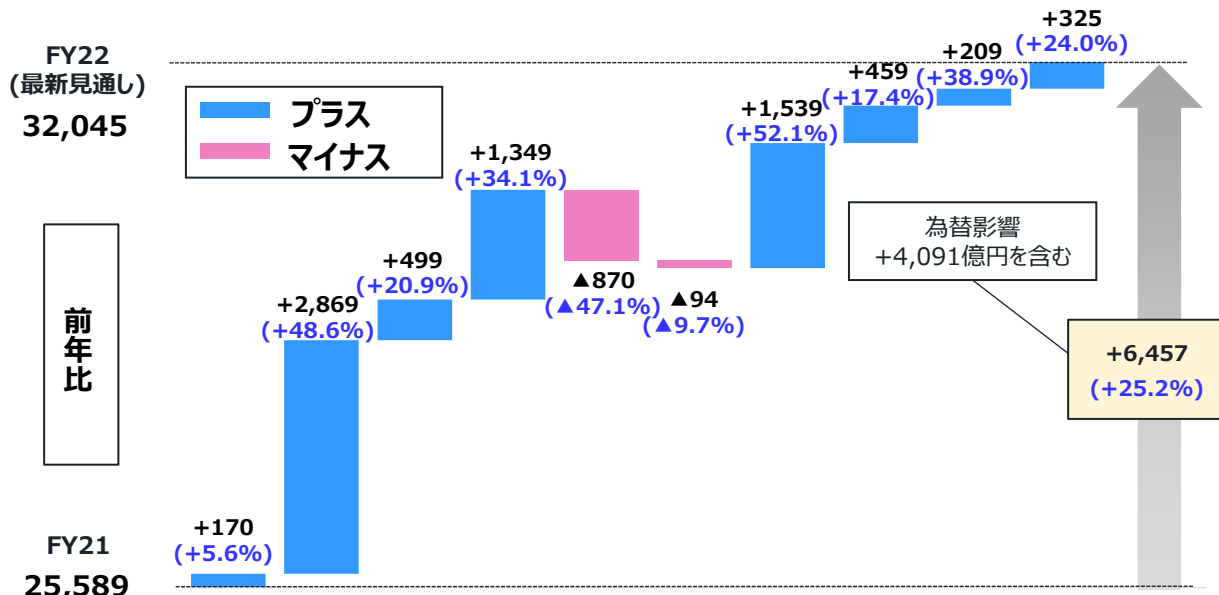
## 各セグメントの状況：

- 建設機械・車両  
物量増、為替差および販売価格のプラス影響等により増収、増益。
- リテールファイナンス  
新規取組高の増加や、為替のプラス影響等により増収、貸倒引当金の減少や為替のプラス影響により増益。
- 産業機械他  
自動車産業向けは、中・大型プレスの売上が減少することにより減収、減益。  
半導体産業向けは、エキシマレーザー関連の売上が好調であること等により増収、増益。

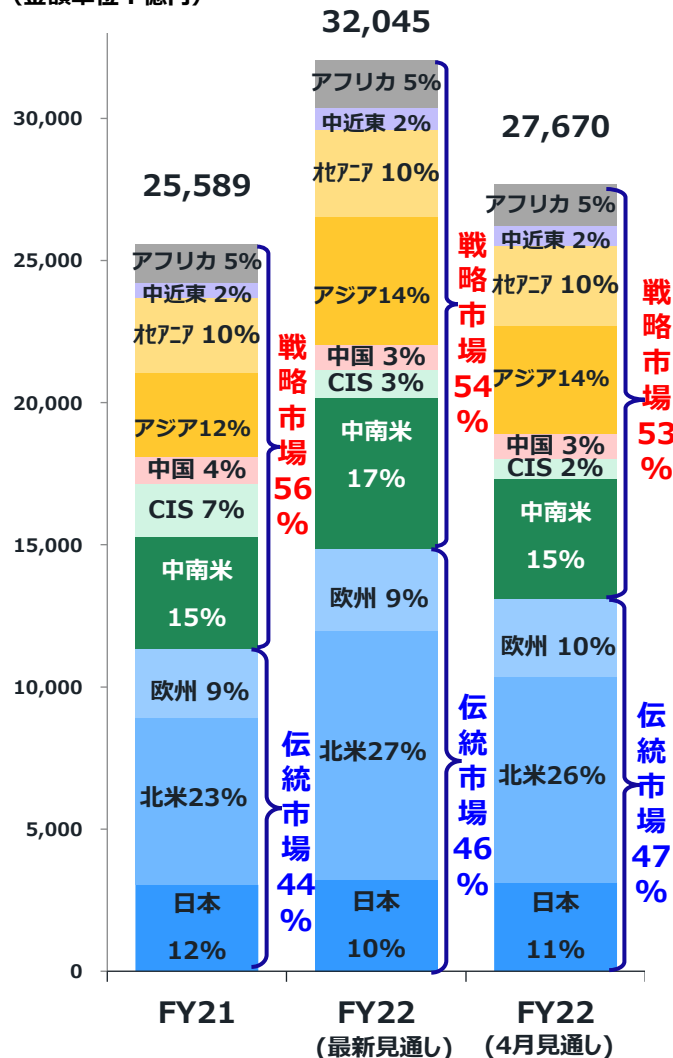


# <建設機械・車両> 2022年度地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

- 外部顧客向け売上高は前年比+25.2%増収の3兆2,045億円。
- CIS、中国を除く、すべての地域で増加。北米、アジア、中南米で大きく増加。
- 伝統市場の比率は46%、戦略市場の比率は54%。



(金額単位：億円)



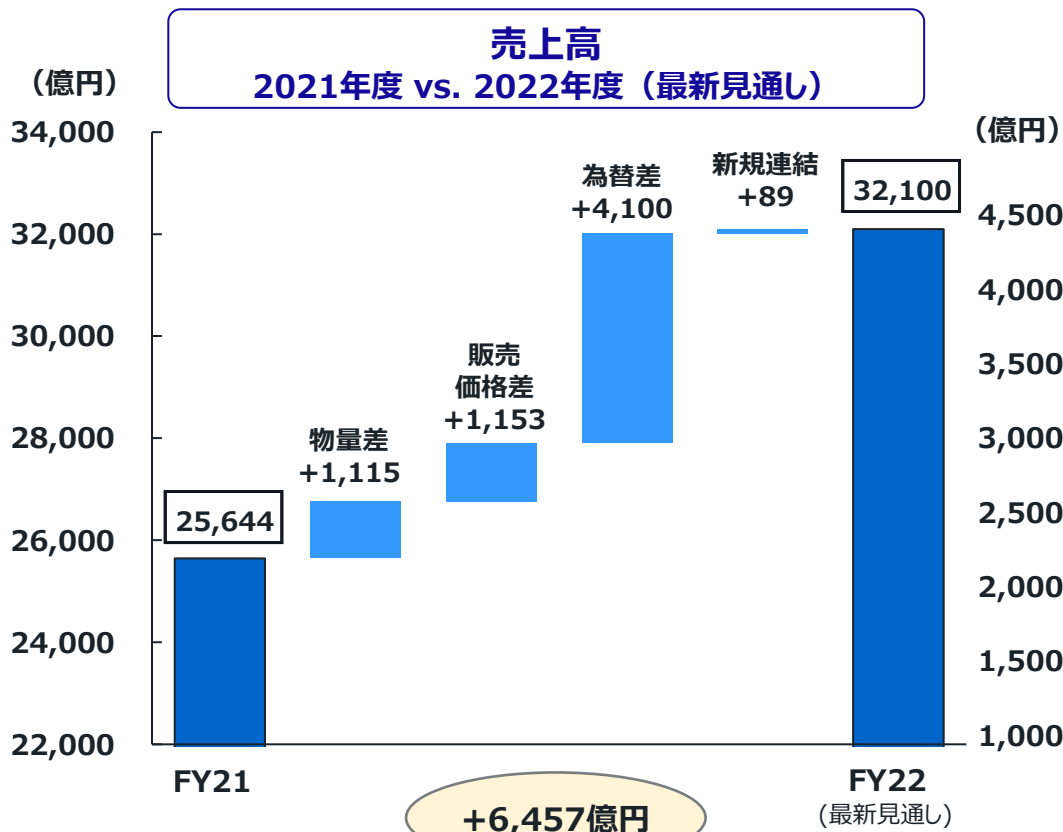
(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2021年度	3,036	5,907	2,393	3,959	1,845	964	2,954	2,634	539	1,357	25,589
2022年度 (最新見通し)	3,207	8,776	2,892	5,308	975	870	4,494	3,094	748	1,682	32,045
増減	+170	+2,869	+499	+1,349	▲870	▲94	+1,539	+459	+209	+325	+6,457

伝統市場

戦略市場

# <建設機械・車両> 2022年度の売上高とセグメント利益の増減要因の見通し

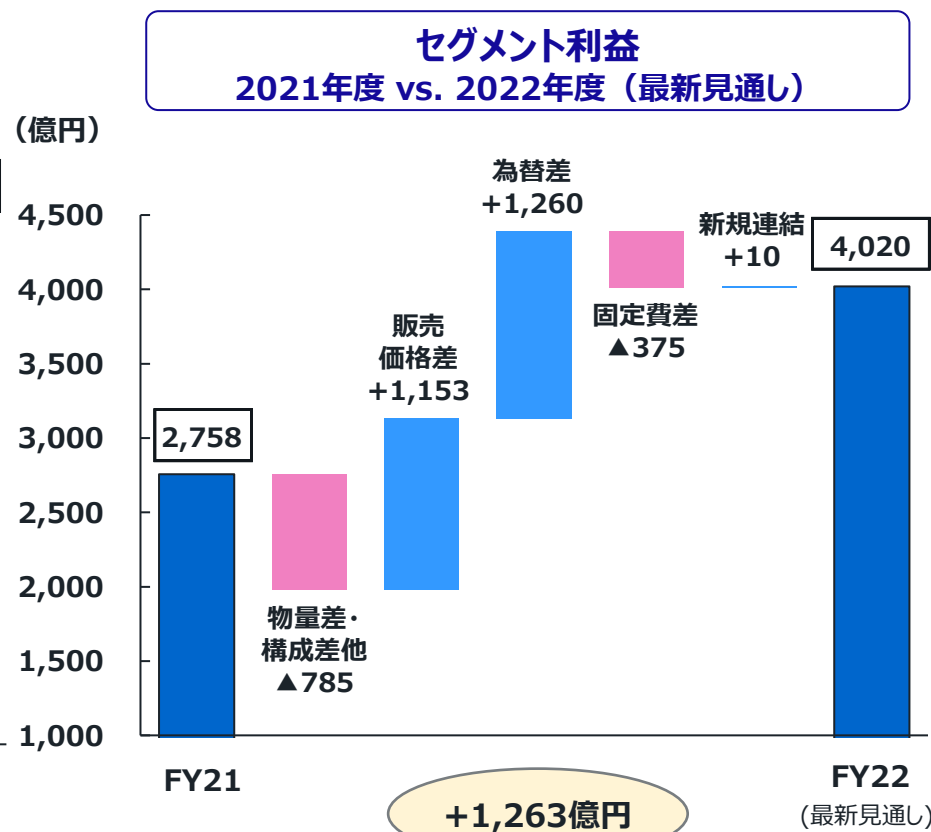
- ・売上高は、物量増、為替差および販売価格のプラス影響等により、+6,457億円の増収。
- ・セグメント利益は、資材価格や物流コストの上昇を販売価格の改善等で吸収。為替のプラス影響もあり、+1,263億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+1.7ポイント上昇し12.5%。



¥112.1/USD  
¥130.4/EUR  
¥82.7/AUD

■ プラス要因  
■ マイナス要因

¥135.8/USD  
¥137.5/EUR  
¥91.0/AUD



10.8%

■ プラス要因  
■ マイナス要因

売上高セグメント利益率

12.5%

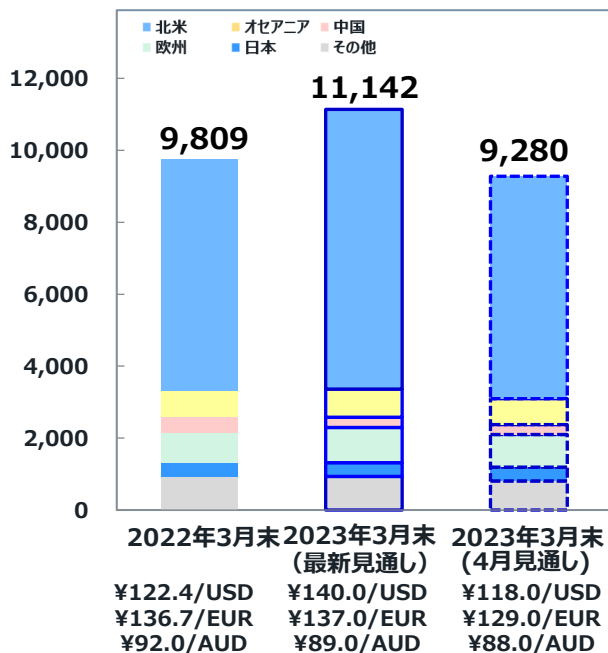
# <リテールファイナンス> 2022年度の見通し

- ・資産は、主に為替の影響により前年度末比+1,333億円の増加の見通し。
- ・新規取組高は、為替の影響や建設機械・車両の販売増に伴い、前年比+2,485億円の増加の見通し。
- ・売上高は、新規取組高の増加や、為替のプラス影響等により、前年比+116億円増収の見通し。
- ・セグメント利益は、貸倒引当金の減少や為替のプラス影響等により前年同期比+78億円の増益。

## 資産

2022年3月末 vs. 2023年3月末 (最新見通し)

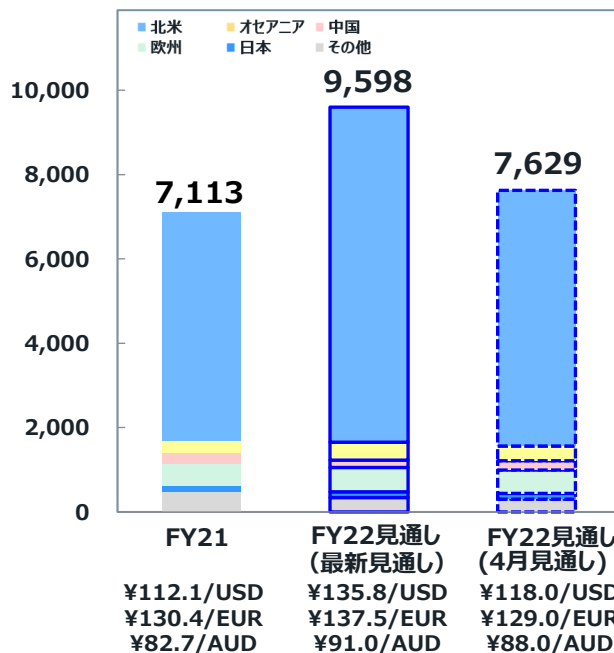
(億円)



## 新規取組高

2021年度 vs. 2022年度 (最新見通し)

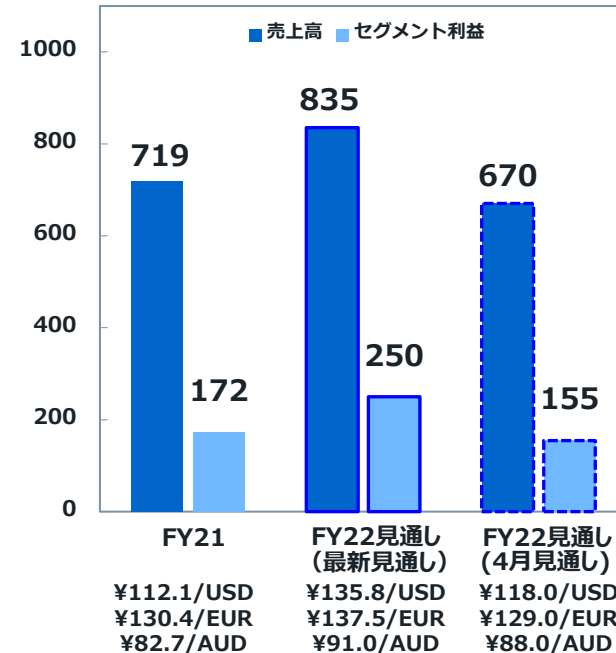
(億円)



## 収益

2021年度 vs. 2022年度 (最新見通し)

(億円)



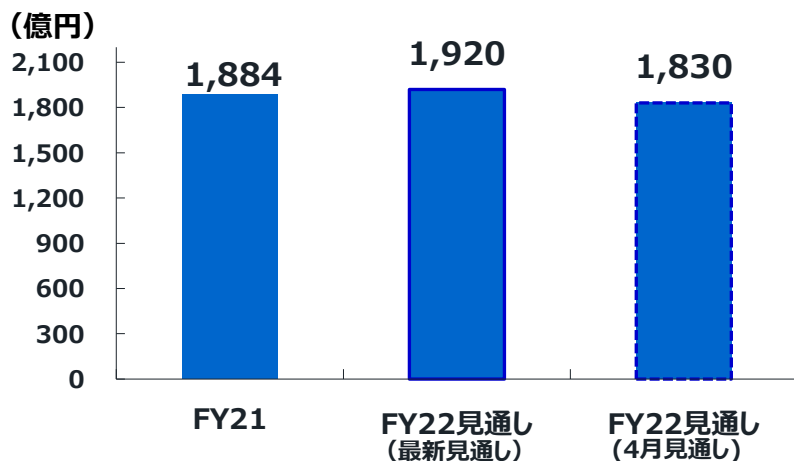
金額単位：億円	2022年3月末 (A)	2023年3月末 (最新見通し) (B)	2023年3月末 (4月見通し)	前年度末比 (B) - (A)
借入金	7,342	8,604	7,205	+1,262
ネットベースの借入金	7,315	8,517	7,140	+1,202
ネットD/Eレシオ	3.51	3.70	3.75	+0.19ポイント

	2021年度	2022年度 (最新見通し)	2022年度 (4月見通し)	前年比
ROA	1.8%	2.4%	1.6%	+0.6ホ°引

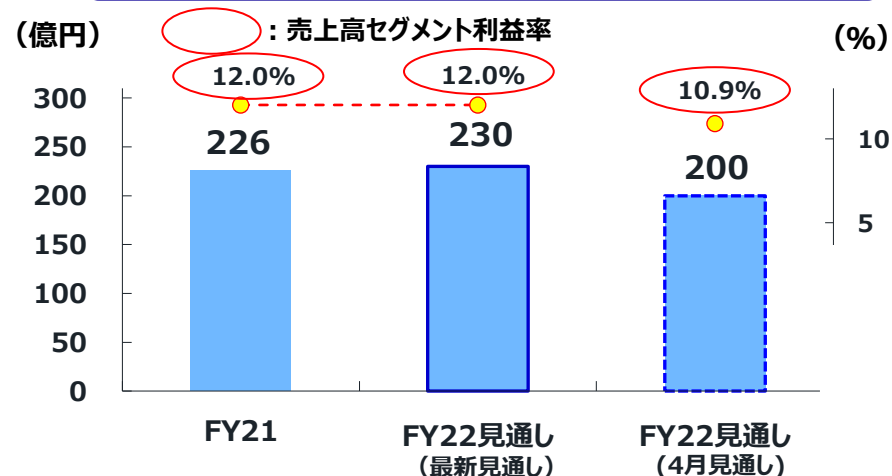
# <産業機械他> 2022年度の売上高とセグメント利益の見通し

- ・売上高は前年比+1.9%増収の1,920億円、セグメント利益は前年比+1.8%増益の230億円。
- ・半導体市場向けエキシマレーザー関連の売上増加等により増収、増益。

**売上高**  
2021年度 vs. 2022年度（最新見通し）



**セグメント利益**  
2021年度 vs. 2022年度（最新見通し）



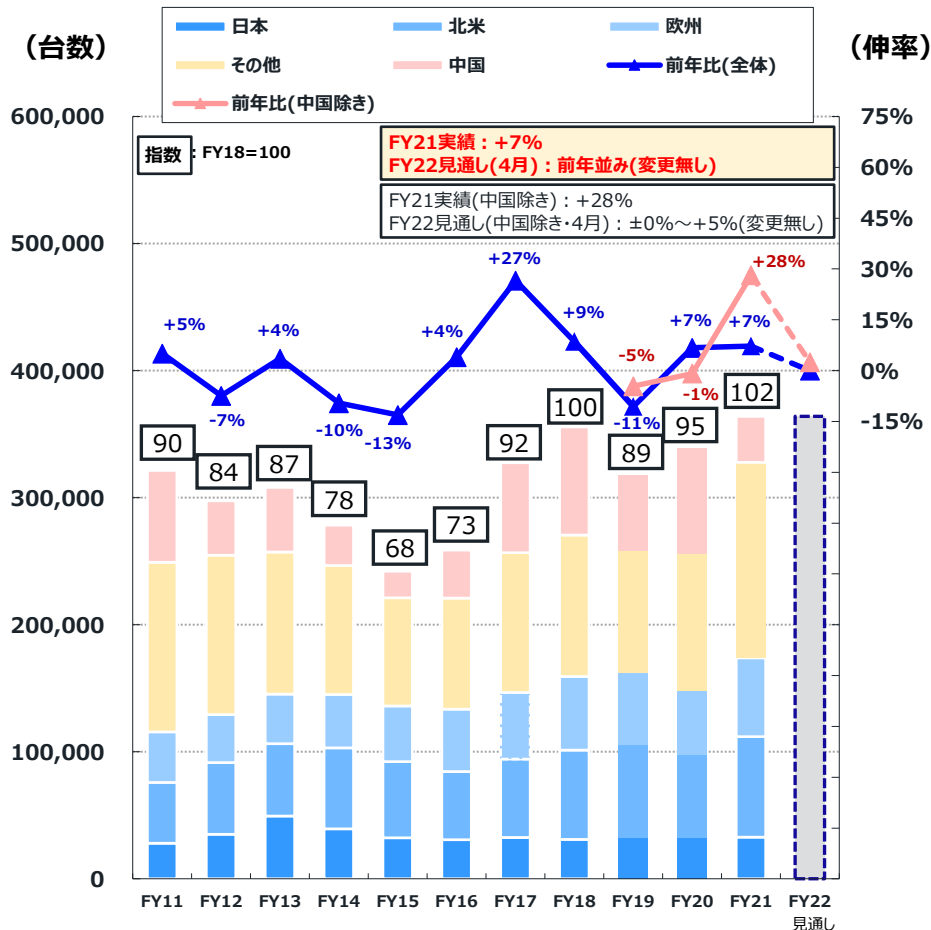
## 売上高の内訳

(億円)	2021年度	2022年度 (最新見通し)	2022年度 (4月見通し)	前年比	
				増減	増減率
コマツ産機	526	428	416	▲98	▲18.7%
コマツNTC	381	426	420	+45	+11.9%
ギガフォトン	523	609	566	+85	+16.3%
その他	453	457	426	+4	+0.9%
合計	1,884	1,920	1,830	+36	+1.9%

# ＜建設機械・車両＞ 主要7建機の需要推移と見通し

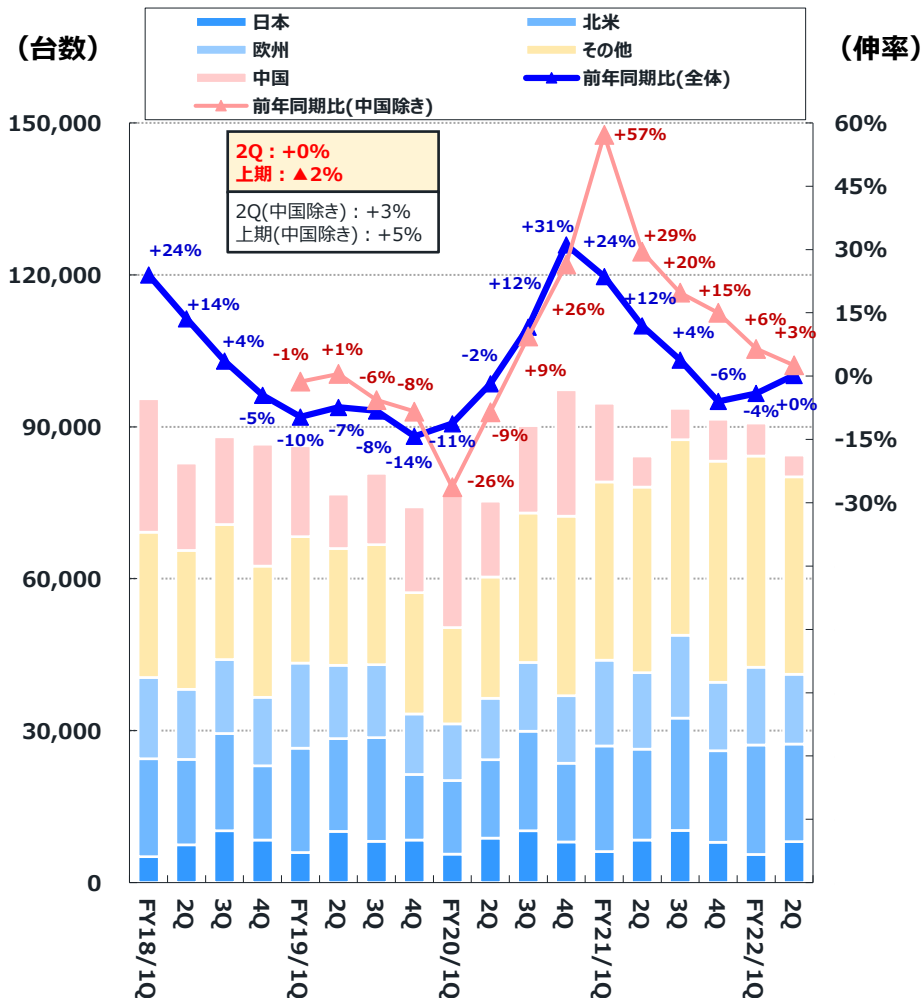
- ・2022年度第2四半期の需要は、前年同期並み。中国を除く地域では前年同期比+3%の増加。
- ・2022年度の需要は、前年並み、中国を除く地域では前年比±0%～+5%の見通し（4月見通しから変更無し）。

## 主要7建機 年度別需要推移



【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

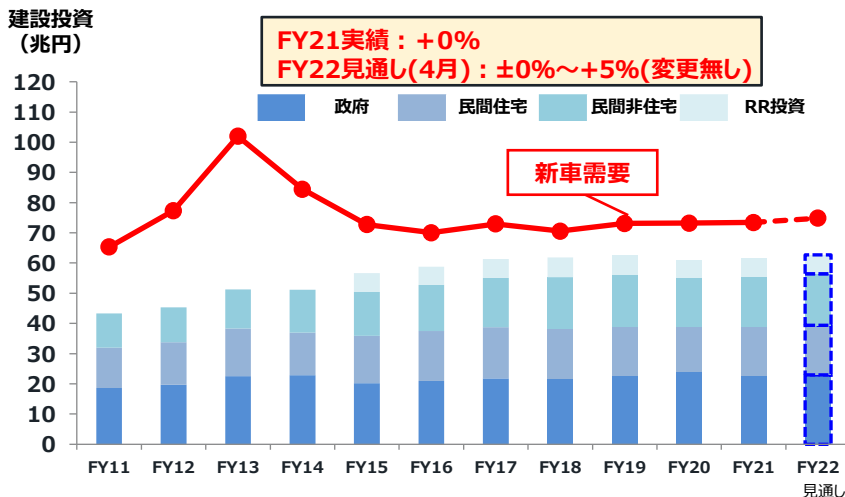
## 主要7建機 四半期別需要推移



# <建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

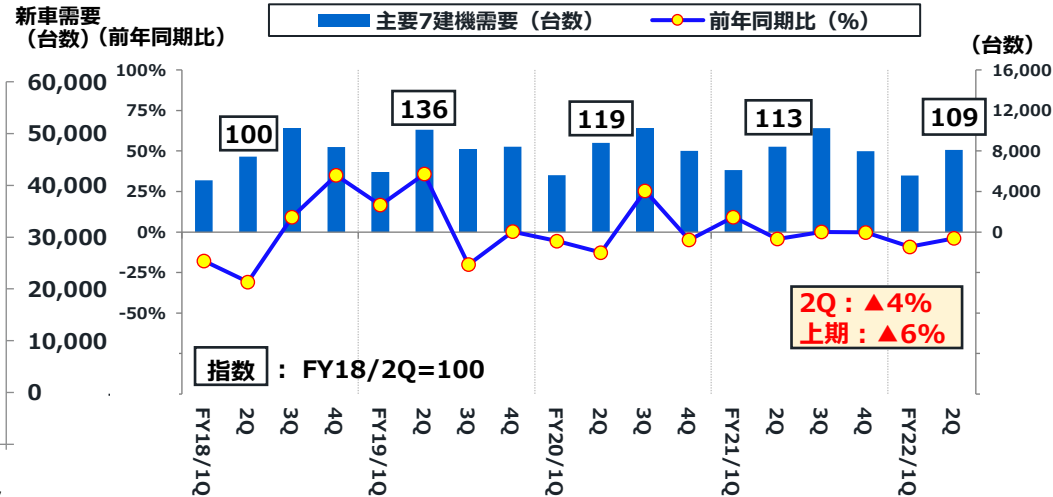
- ・2022年度第2四半期の需要は、前年同期比▲4%の減少。サプライチェーンの混乱による影響で供給が伸びず、需要は減少。
- ・2022年度の需要は、前年比±0%～+5%の見通し（4月見通しから変更無し）。

## 新車需要（主要7建機）と建設投資

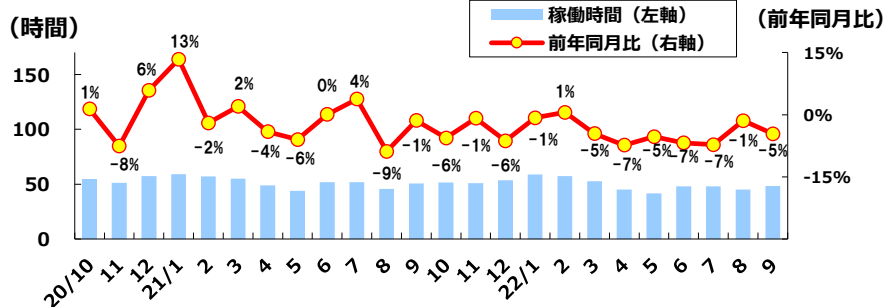


【出所】主要7建機需要：コマツの推定 建設投資：国土交通省／建設経済研究所

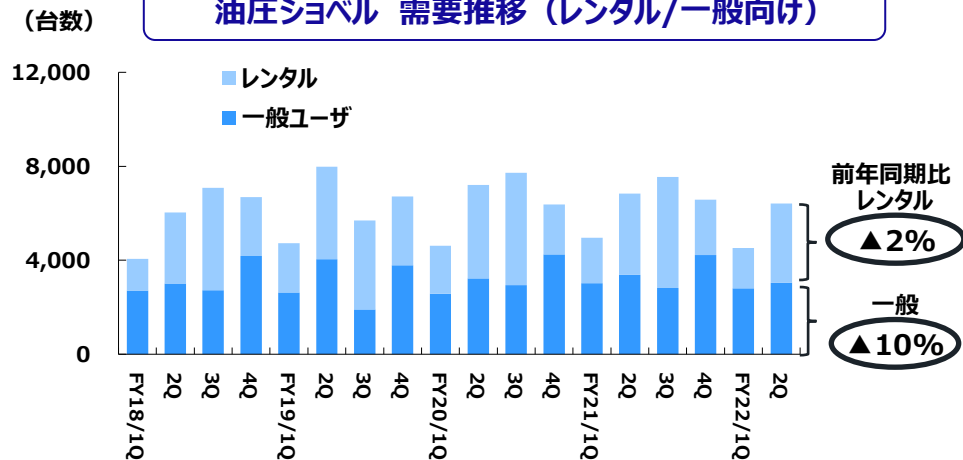
## 主要7建機 四半期別需要推移



## Komtrax（日本）月平均稼働時間推移



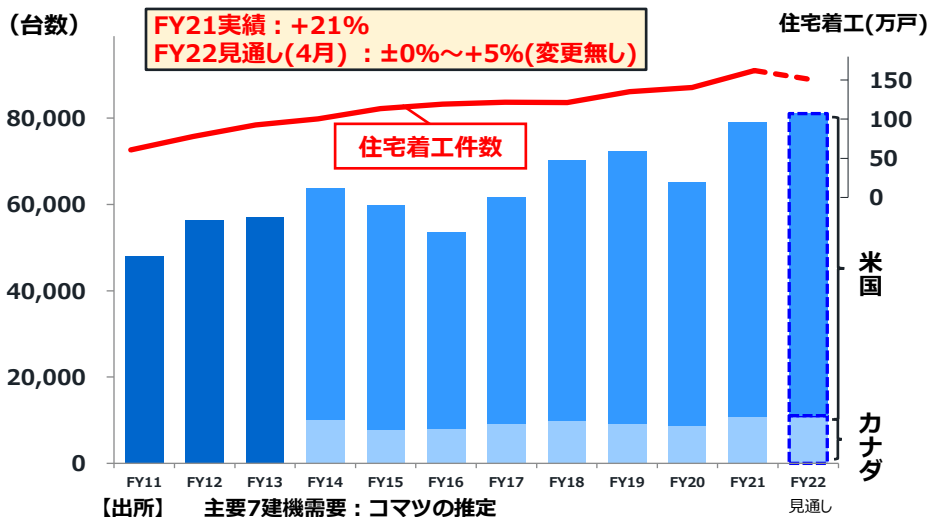
## 油圧ショベル 需要推移（レンタル/一般向け）



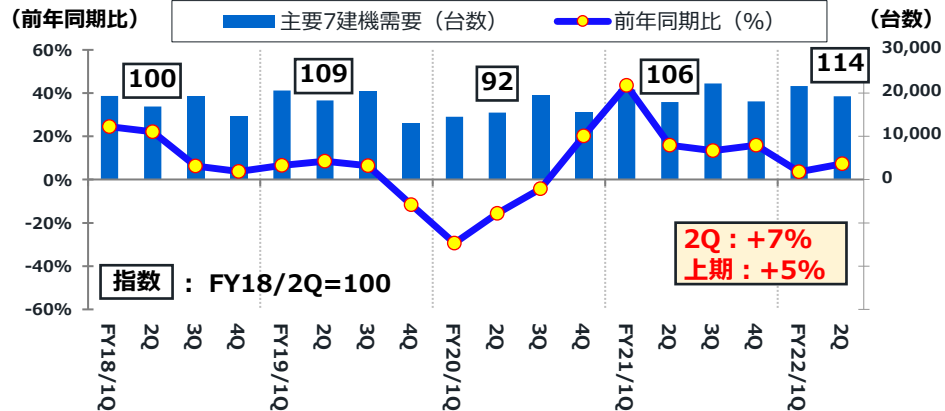
# ＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- ・2022年度第2四半期の需要は、前年同期比+7%の増加。住宅、非住宅、インフラ向けは堅調に推移。エネルギー向け、レンタル向けも増加。
- ・2022年度の需要は、前年比±0%～+5%の見通し（4月見通しから変更無し）。

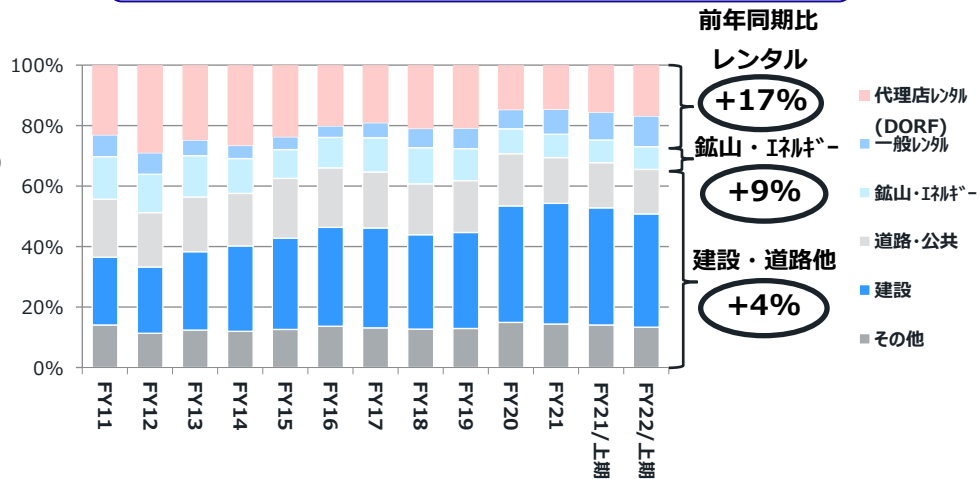
## 主要7建機 需要推移と住宅着工件数



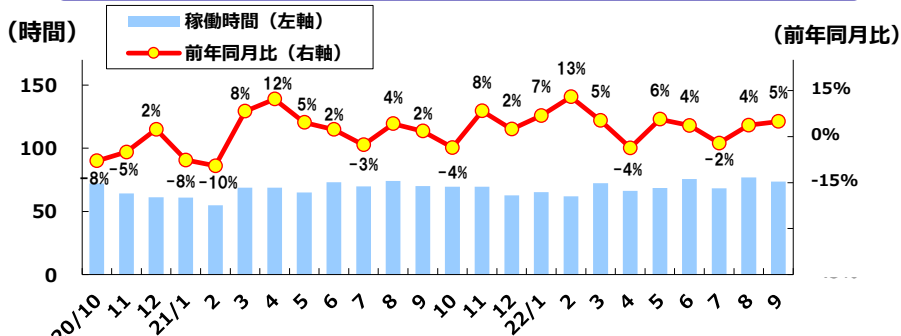
## 主要7建機 四半期需要推移



## セグメント別需要構成比 (台数ベース)



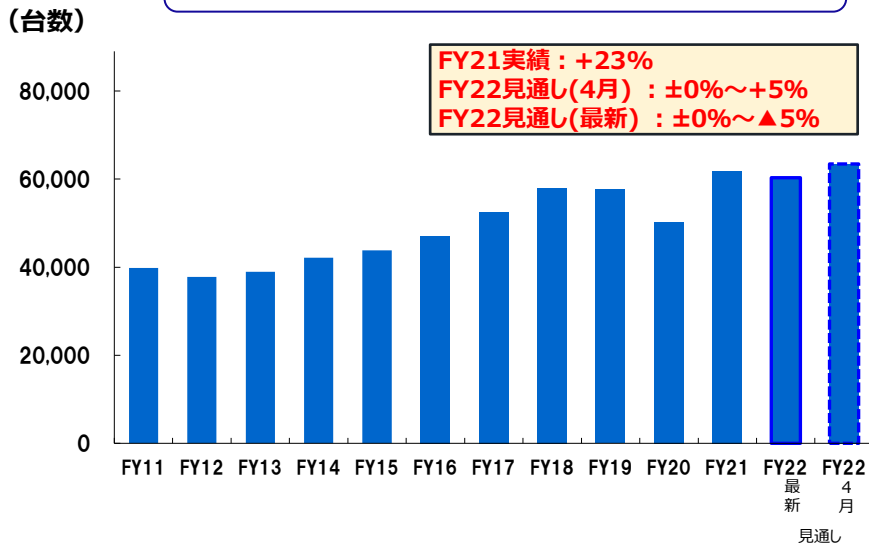
## Komtrax (北米) 月平均稼働時間推移



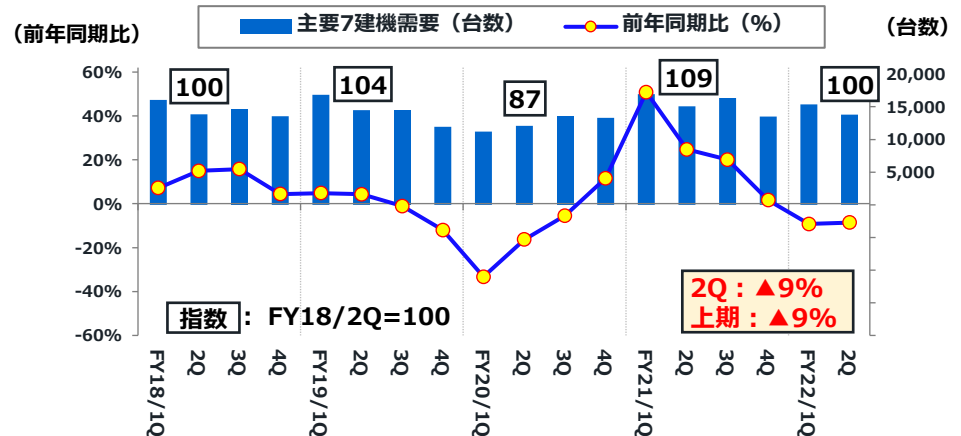
# ＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し： ③ 欧州

- ・2022年度第2四半期の需要は、前年同期比▲9%の減少。サプライチェーンの混乱による影響で供給が伸びず、ドイツ、英国、フランスなどで需要が減少。
- ・2022年度の需要は、前年比±0%～▲5%の見通し（4月見通しから変更）。

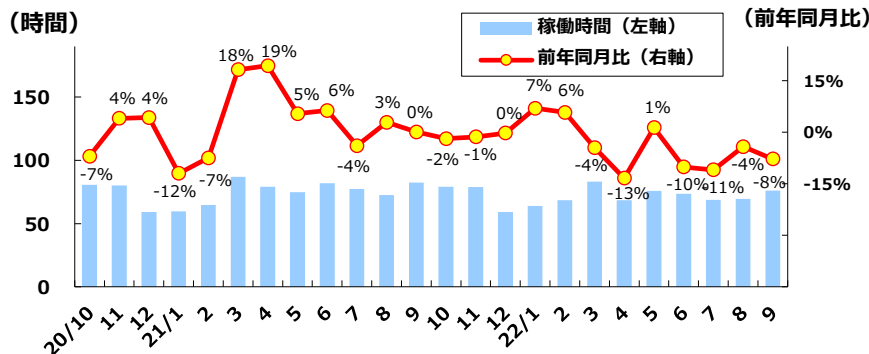
## 主要7建機 年度別需要推移



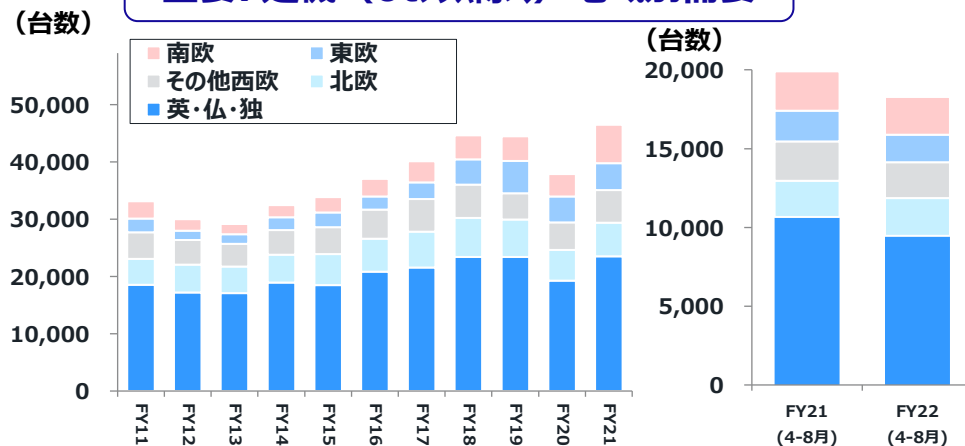
## 主要7建機 四半期需要推移



## Komtrax (欧州) 月平均稼働時間推移



## 主要7建機 (6tクラス除く) 地域別需要

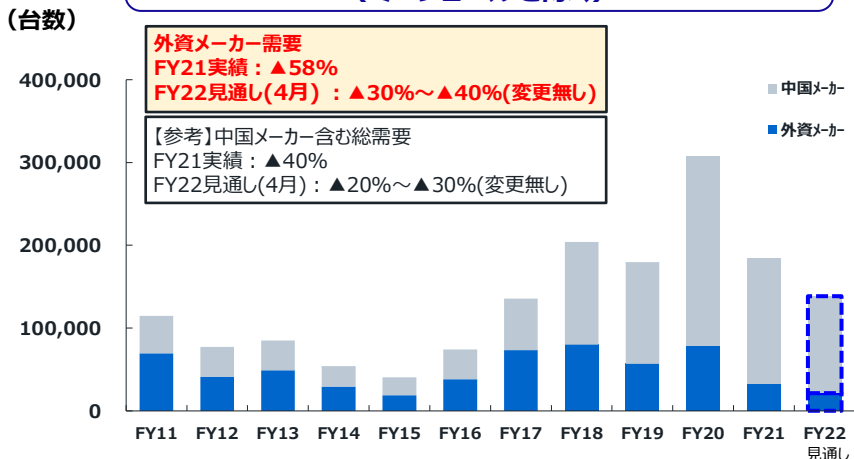




# ＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：④ 中国

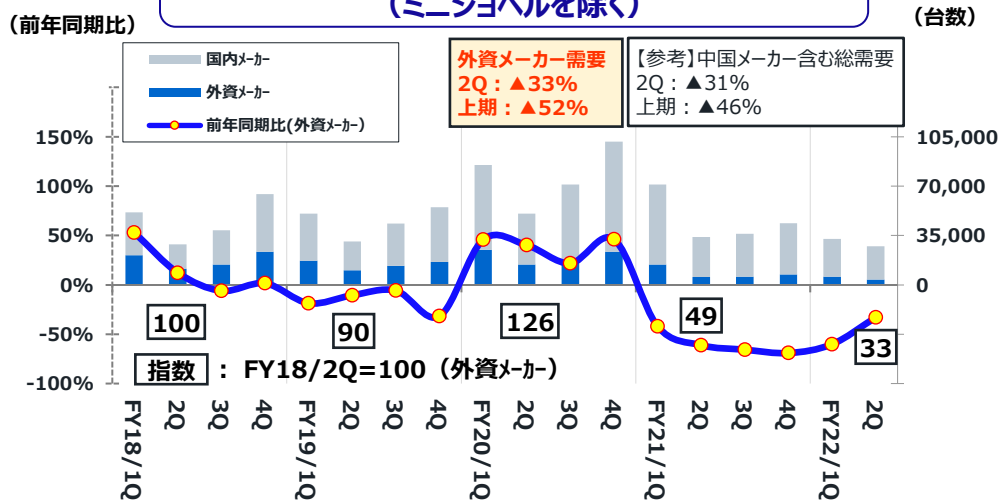
- ・2022年度第2四半期の需要は、前年同期比▲33%の減少。
- ・2022年度の需要は、前年比▲30%～▲40%の見通し（4月見通しから変更無し）。

## 油圧ショベル 年度別需要推移 (ミニショベルを除く)

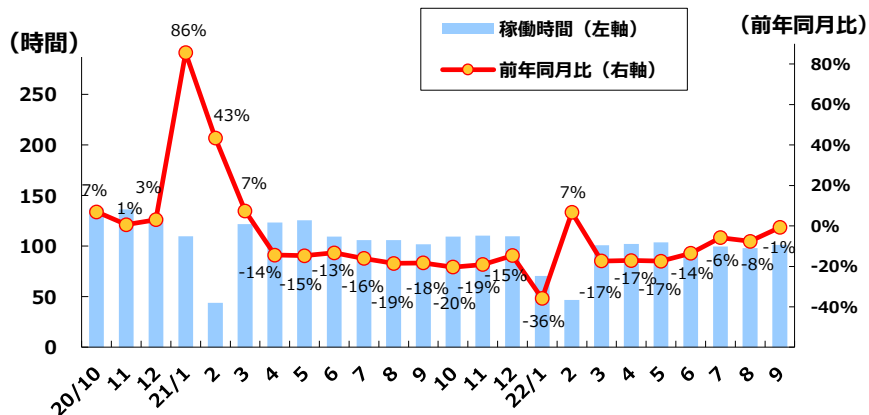


【出所】油圧ショベル需要：コマツの推定

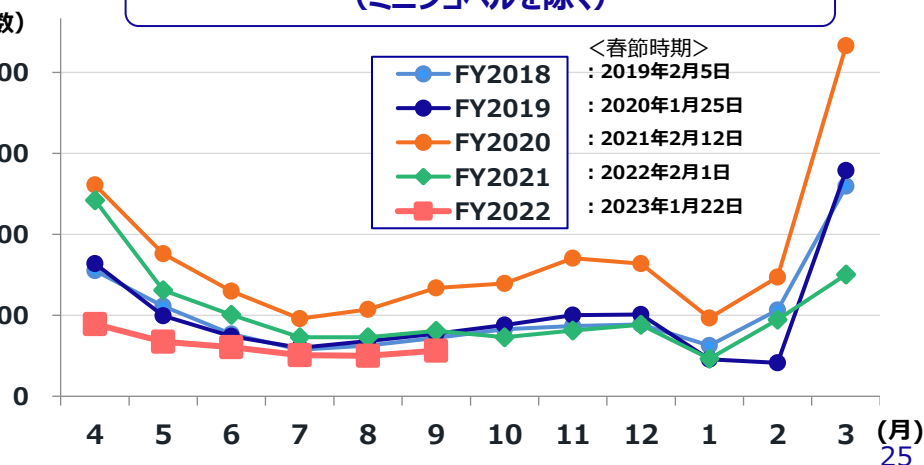
## 油圧ショベル 四半期需要推移 (ミニショベルを除く)



## Komtrax (中国) 月平均稼働時間推移



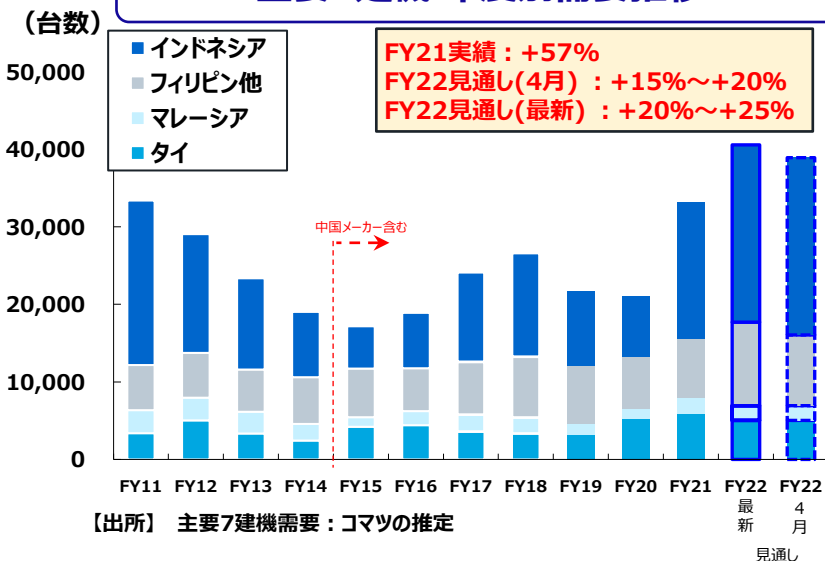
## 中国：油圧ショベルの月別需要推移 (ミニショベルを除く)



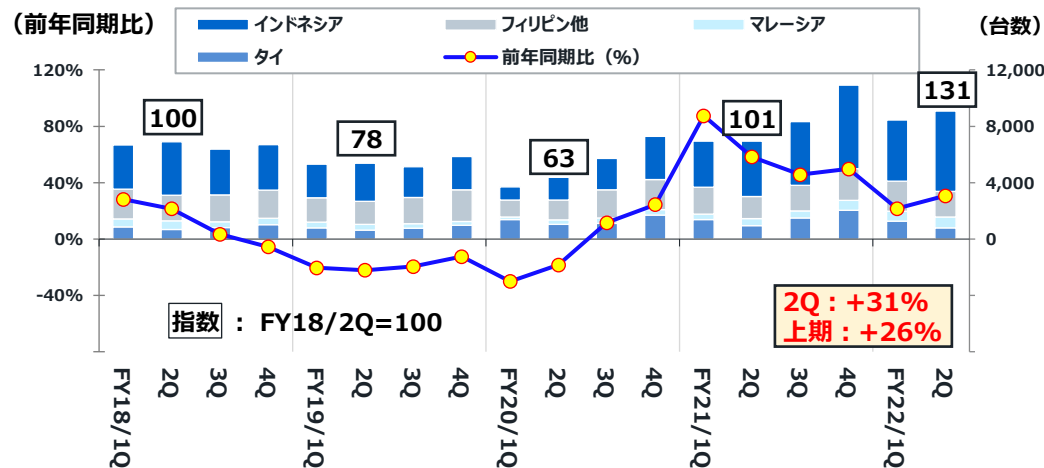
# <建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：⑤ 東南アジア

- ・2022年度第2四半期の需要は、前年同期比+31%の増加。最大市場のインドネシアやマレーシア、フィリピンなどで需要が増加。
- ・2022年度の需要は、前年比+20%~+25%の見通し（4月見通しから変更）。

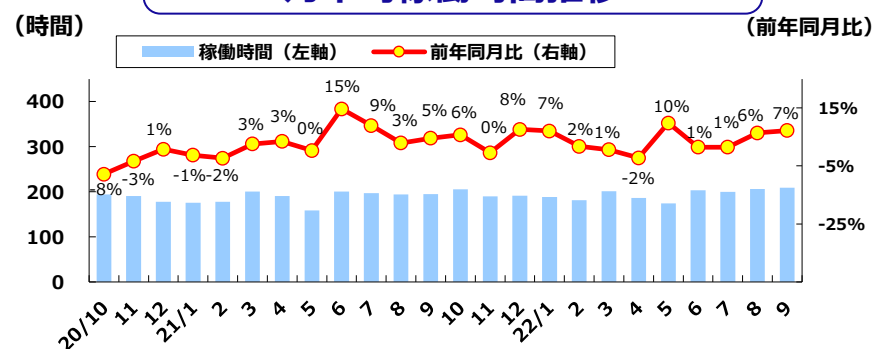
## 主要7建機 年度別需要推移



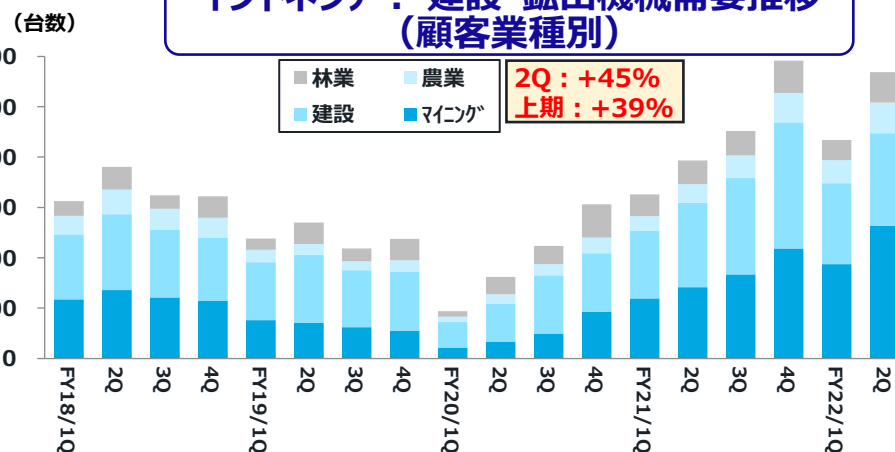
## 主要7建機 四半期需要推移



## Komtrax (インドネシア) 月平均稼働時間推移



## インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)

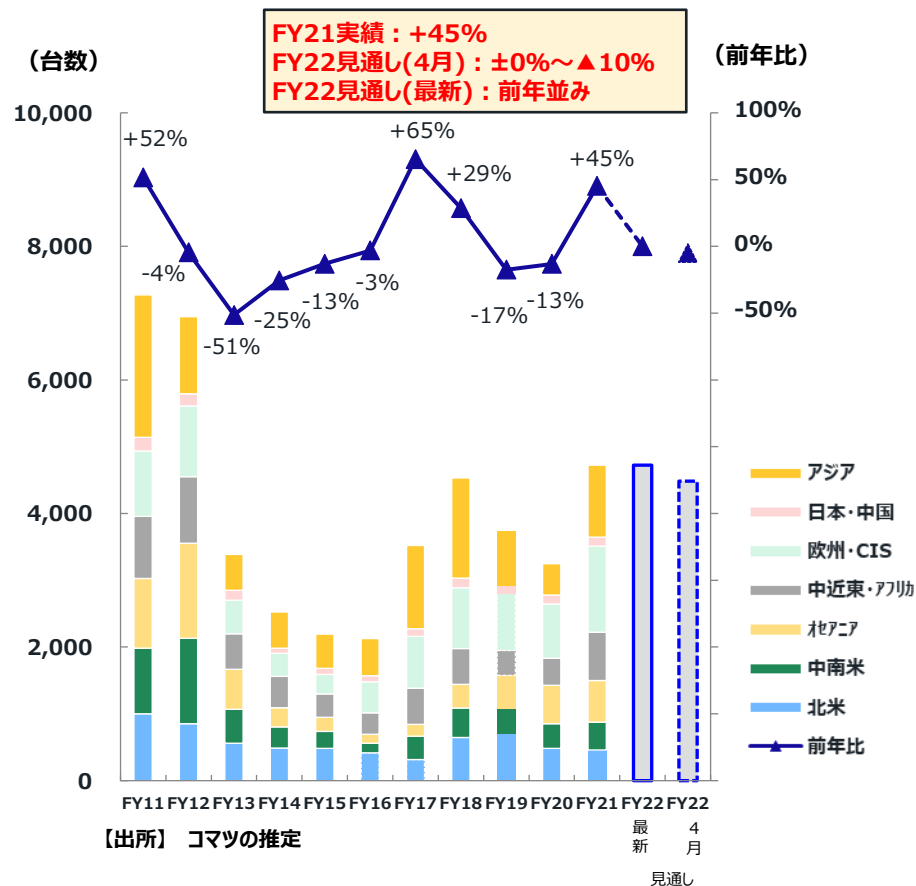


# ＜建設機械・車両＞ 鉱山機械の需要推移と見通し

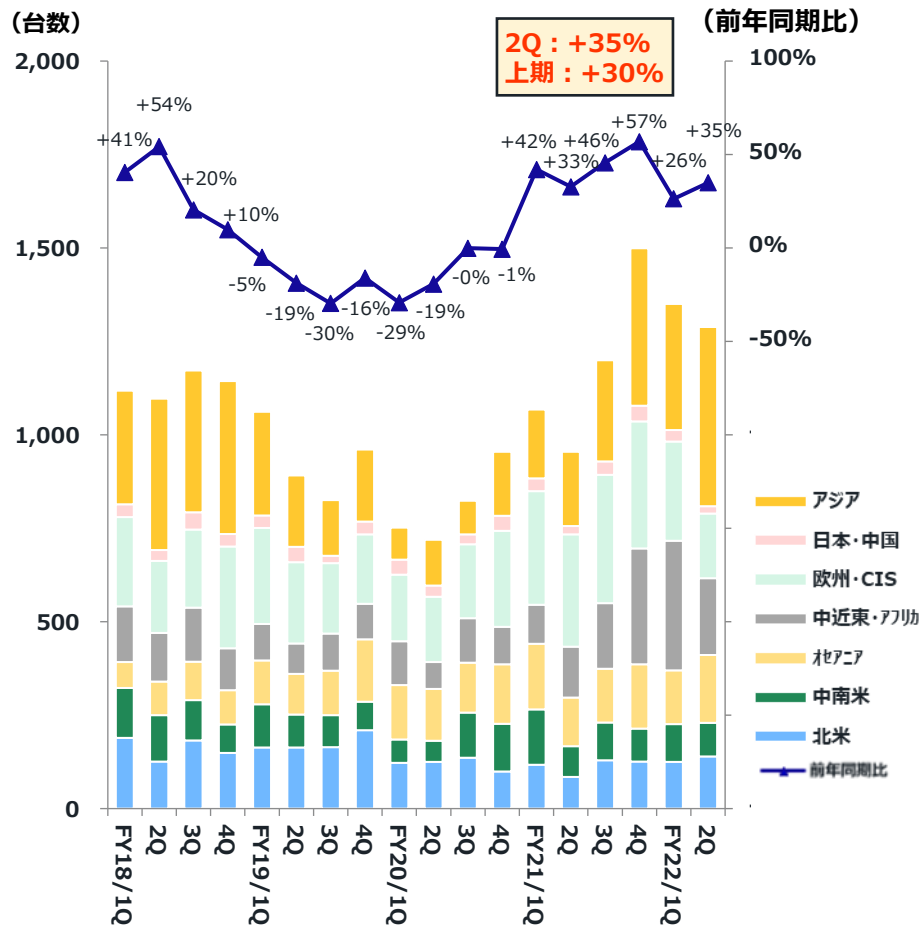
- ・2022年度第2四半期の需要は、前年同期比+35%の増加。CISは需要が減少、インドネシアなどアジアで需要が大きく増加。
- ・2022年度の需要は、前年並みの見通し（4月見通しから変更）

## 鉱山機械 年度別需要推移

- ・ダンプトラック：75 t（HD785）以上
- ・フルパワー：525HP（D375）以上
- ・エクスカベータ：200 t（PC2000）以上
- ・ホイールダ（機械駆動）：810HP（WA800）以上
- ・モーターダ：280HP（GD825）以上



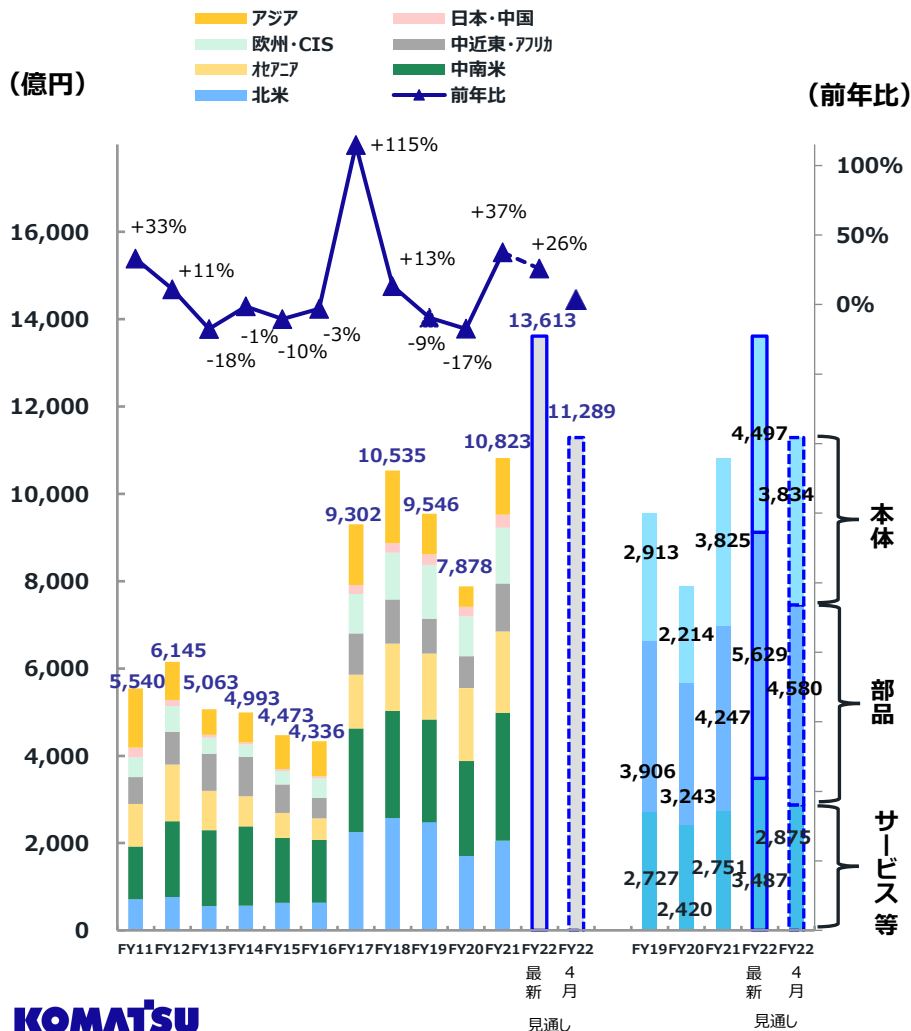
## 鉱山機械 四半期別需要推移



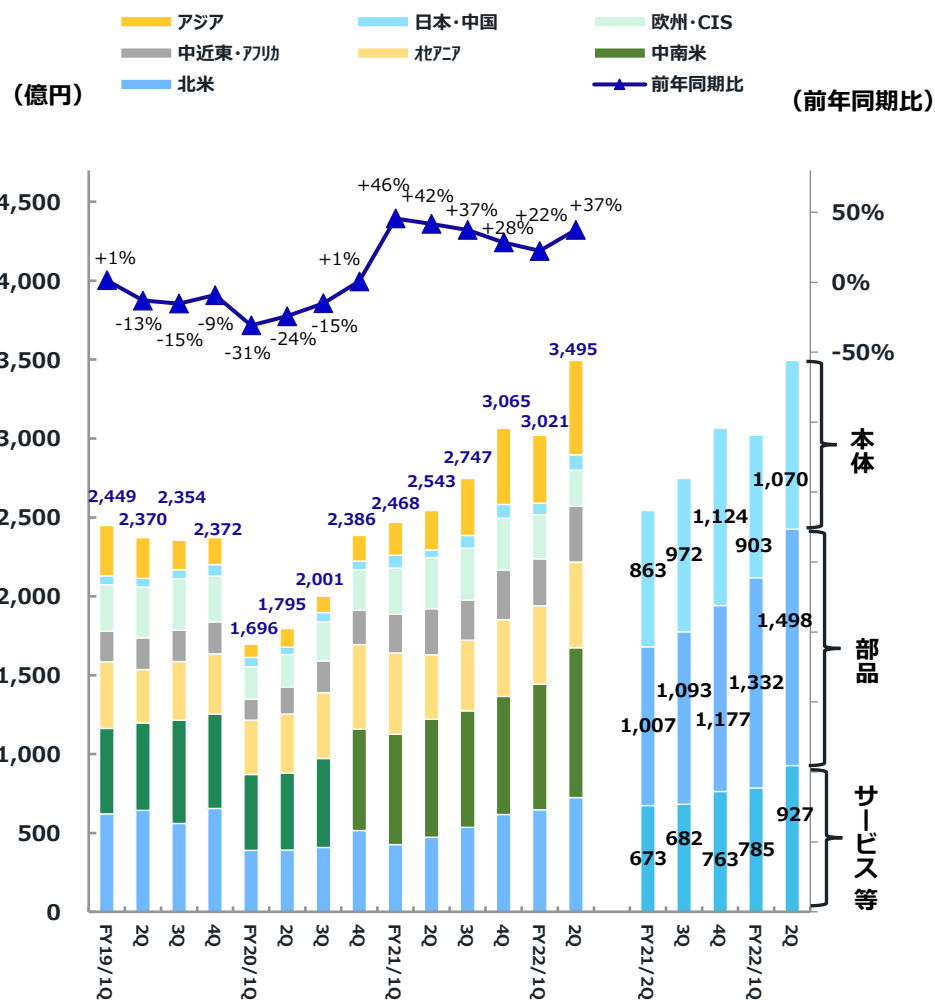
# <建設機械・車両> 鉱山機械の売上高の見通し

- ・2022年度第2四半期の売上高は、前年同期比+37%増収の3,495億円。CISで減少、アジア、北米などで増加。
- ・2022年度の売上高は、前年比+26%増収の1兆3,613億円の見通し（4月見通しから変更）。

## 鉱山機械 年度別売上高（部品・サービス等含む）



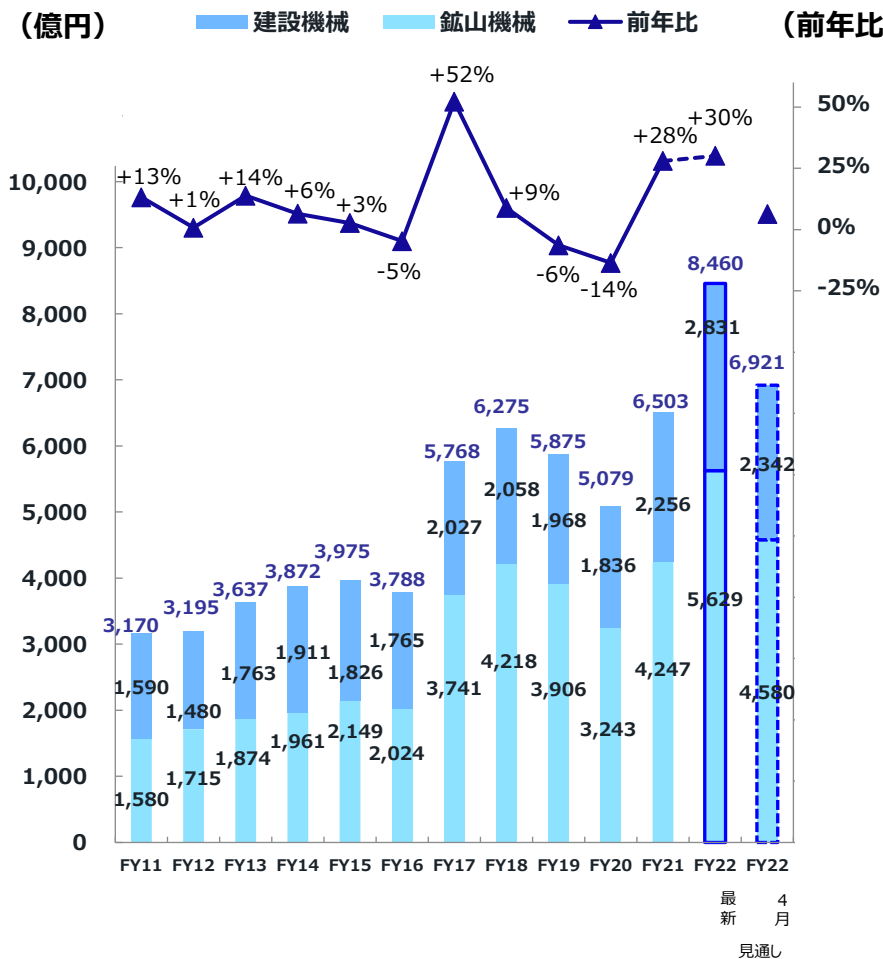
## 鉱山機械 四半期別売上高（部品・サービス等含む）



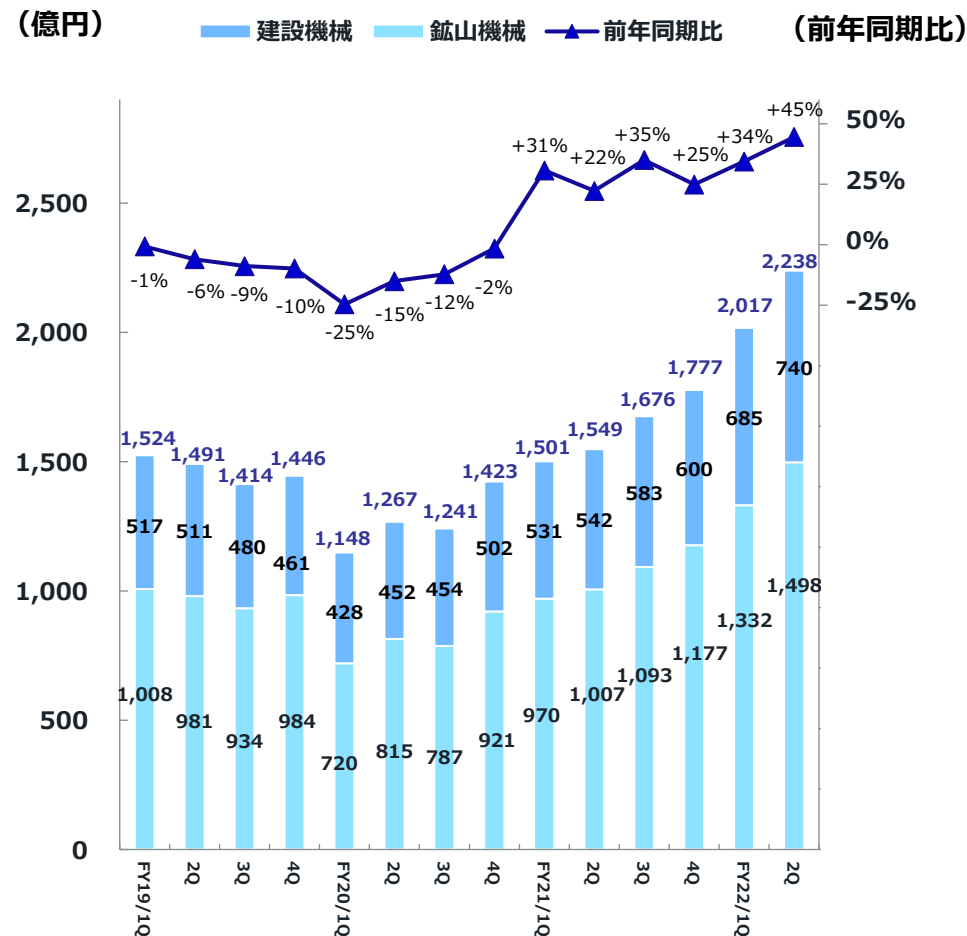
# <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

- ・2022年度第2四半期の部品売上高は、前年同期比+45%増収の2,238億円。中国など、一部の地域を除き増加。
- ・2022年度の部品売上高は、前年比+30%増収の8,460億円の見通し（4月見通しから変更）。

## 部品 年度別売上高



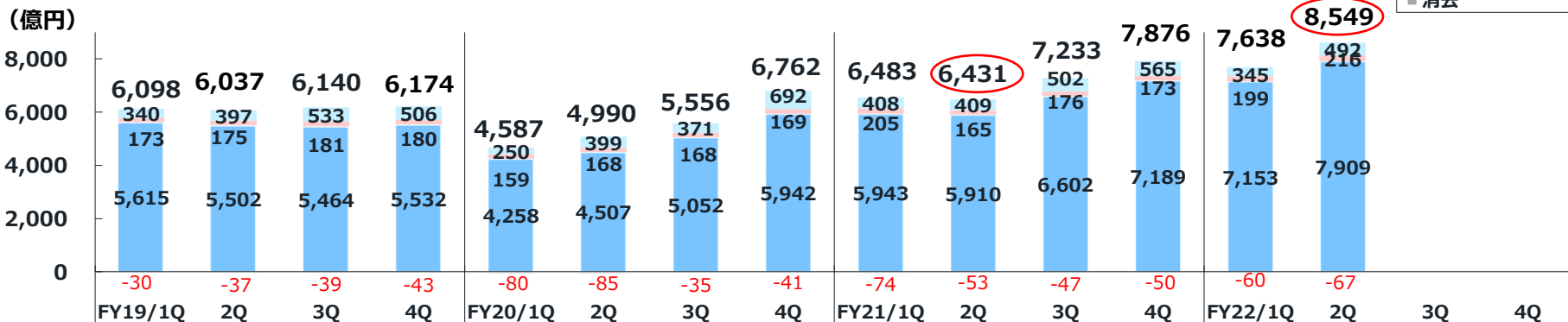
## 部品 四半期別売上高



## 参考資料

# 【参考資料】四半期毎の売上高と営業利益の推移

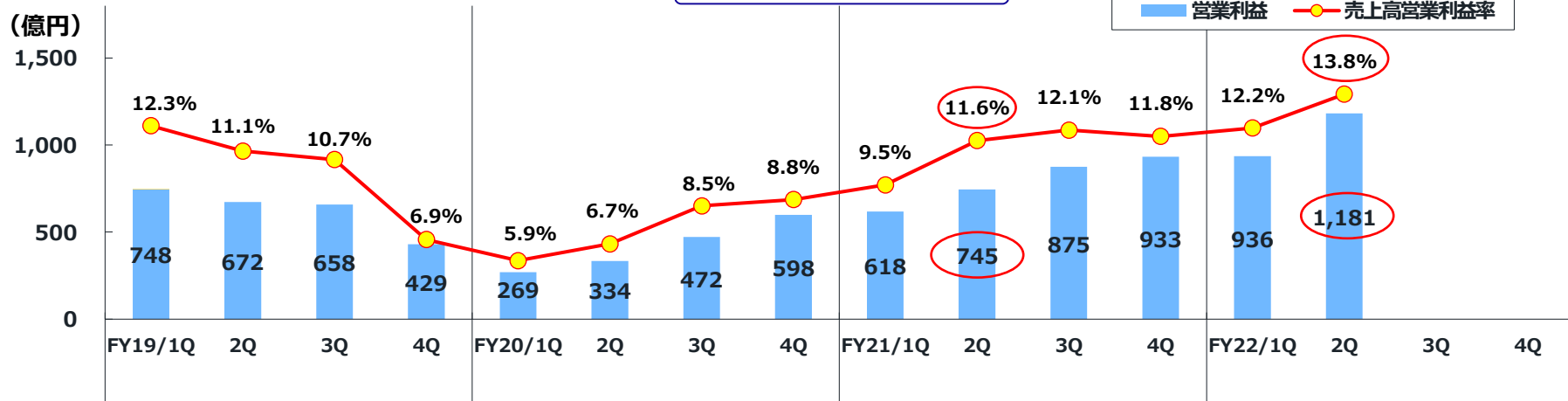
## 連結売上高



為替レート

	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q
¥/USD	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1		
¥/EUR	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3		
¥/AUD	77.2	74.0	73.9	72.6	69.2	76.1	75.2	80.6	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9		

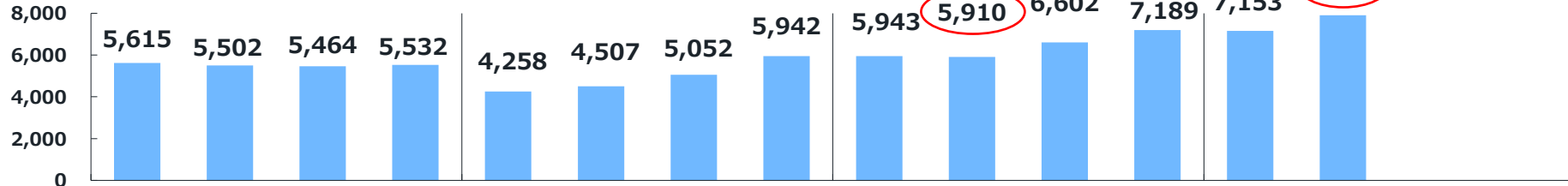
## 営業利益



# 【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

## 売上高

(億円)

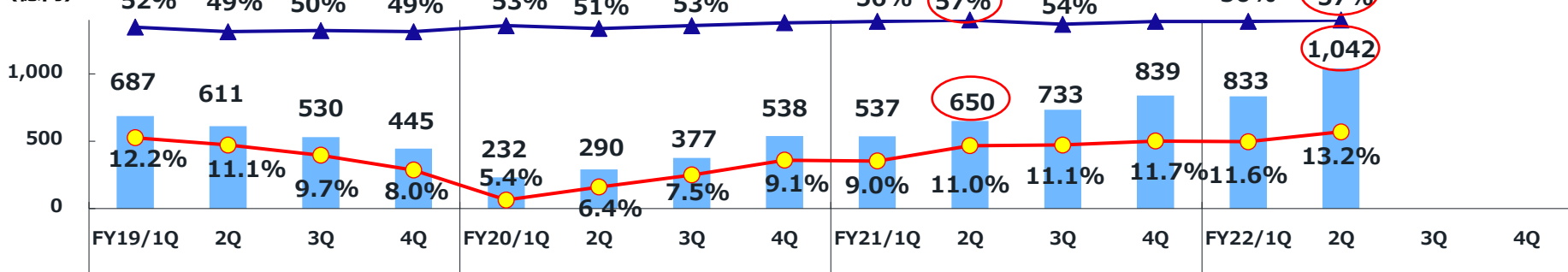


為替  
レート

	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q
¥/USD	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1		
¥/EUR	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3		
¥/AUD	77.2	74.0	73.9	72.6	69.2	76.1	75.2	80.6	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9		

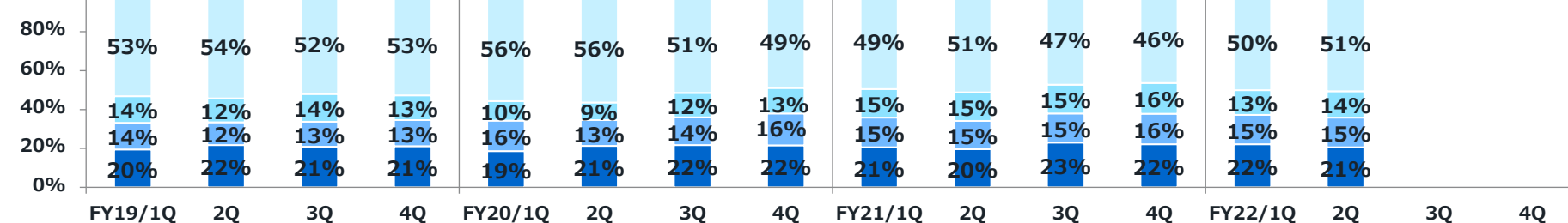
## セグメント利益

(億円)



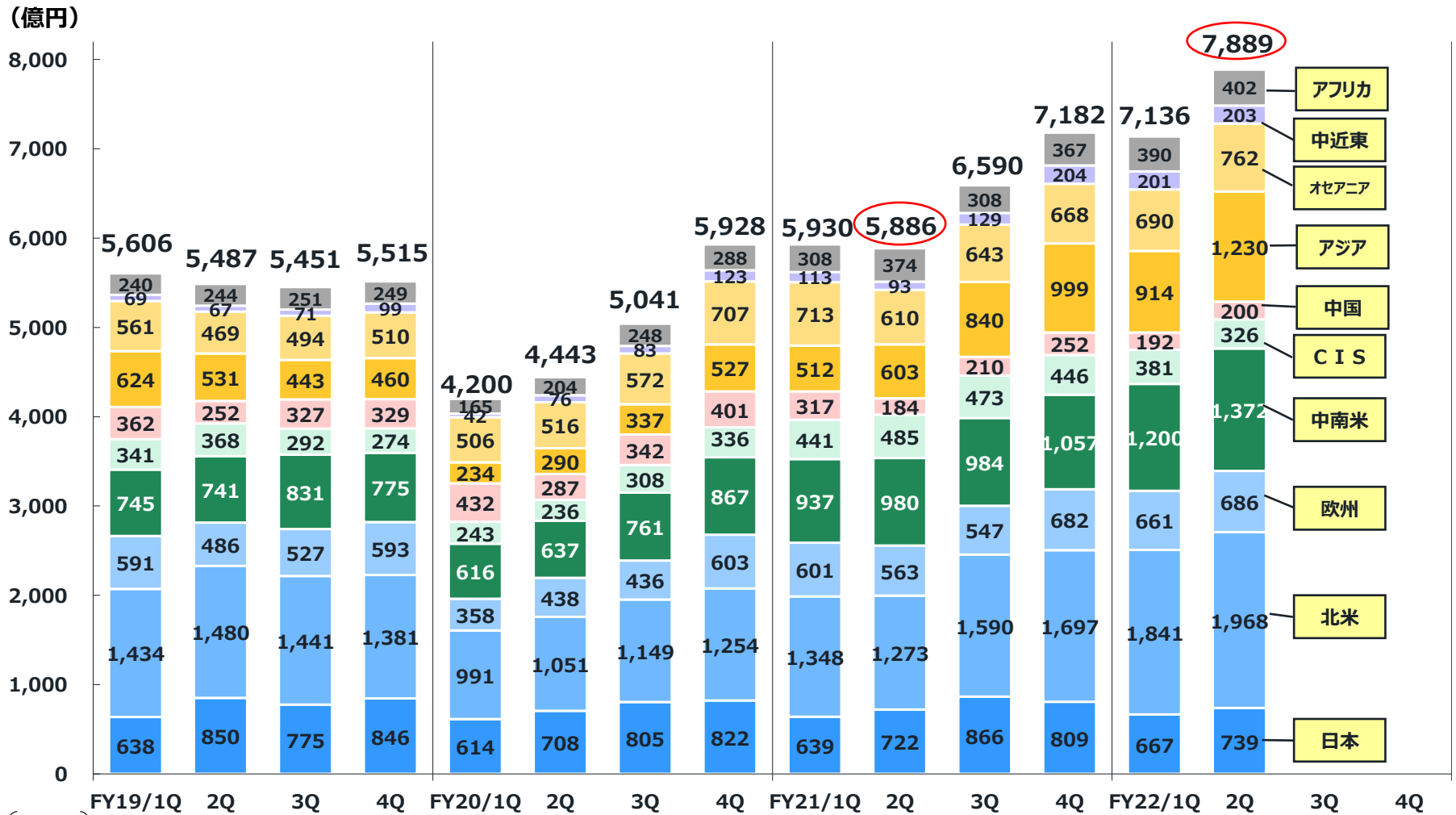
## 売上高構成比

100%





# 【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）



為替レート	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q
	¥/USD	110.0	107.9	108.6
¥/EUR	123.2	120.0	119.7	120.0
¥/AUD	77.2	74.0	73.9	72.6

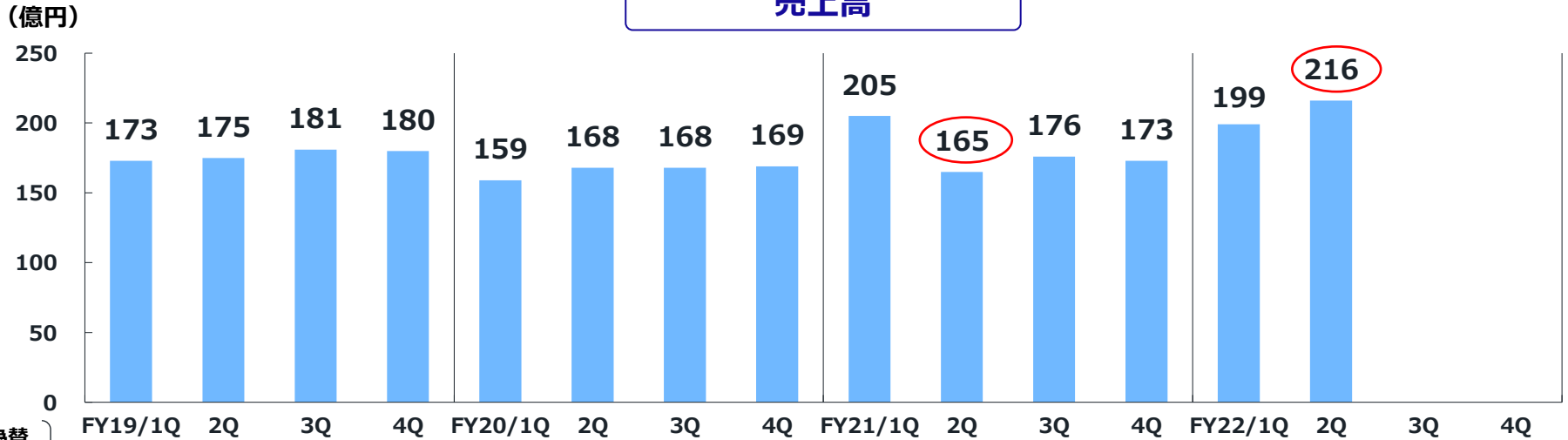
20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
107.5	106.7	104.9	104.8
118.6	124.2	123.4	127.3
69.2	76.1	75.2	80.6

21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q
109.9	110.3	112.9	115.3
131.7	130.6	129.7	129.7
84.5	81.4	82.3	82.7

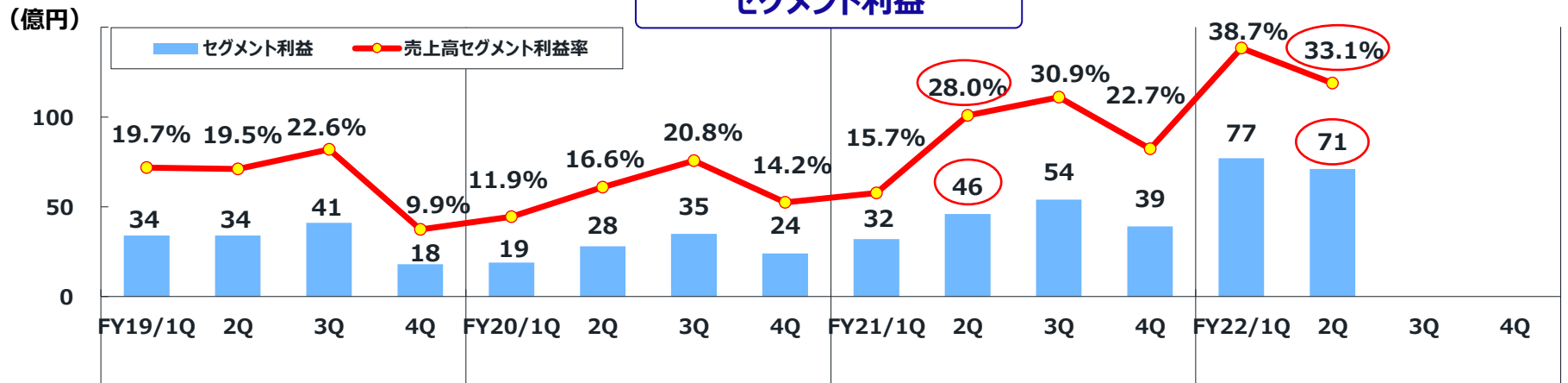
22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q
127.1	136.1		
136.9	139.3		
92.0	93.9		

# 【参考資料】<リテールファイナンス> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

## 売上高



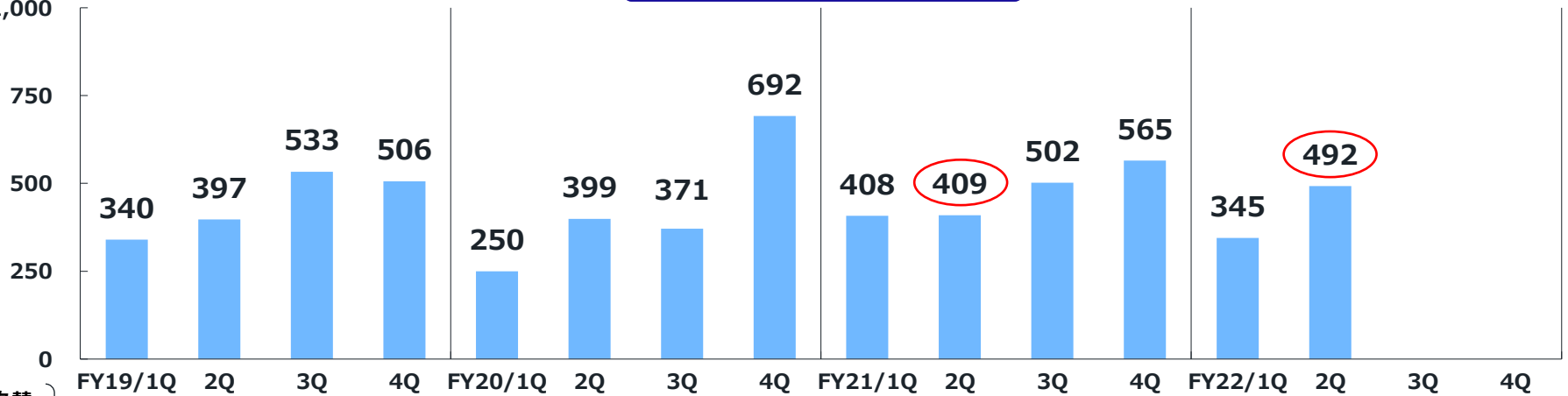
## セグメント利益



# 【参考資料】＜産業機械他＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

(億円)  
1,000

## 売上高

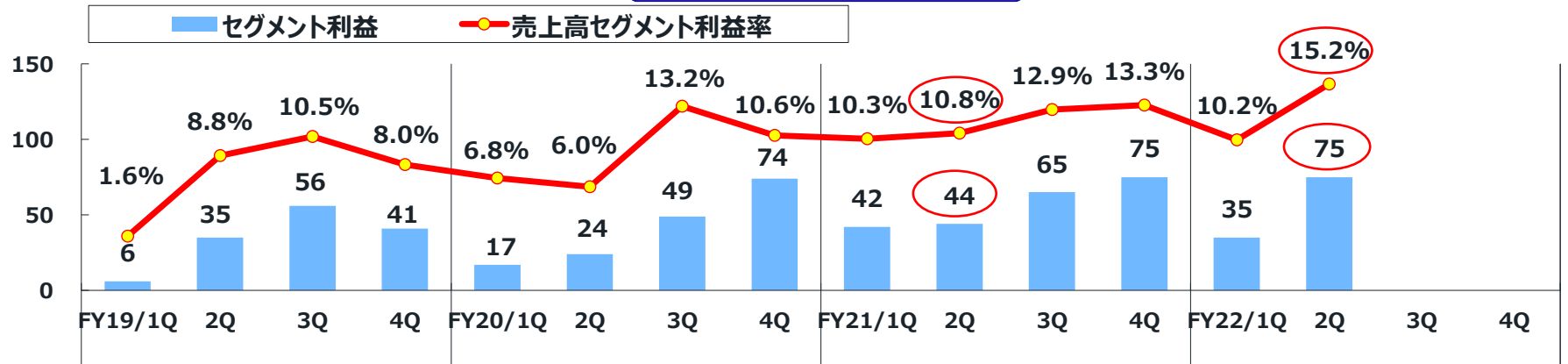


為替  
レート

	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q
¥/USD	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1		
¥/EUR	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3		
¥/AUD	77.2	74.0	73.9	72.6	69.2	76.1	75.2	80.6	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9		

(億円)

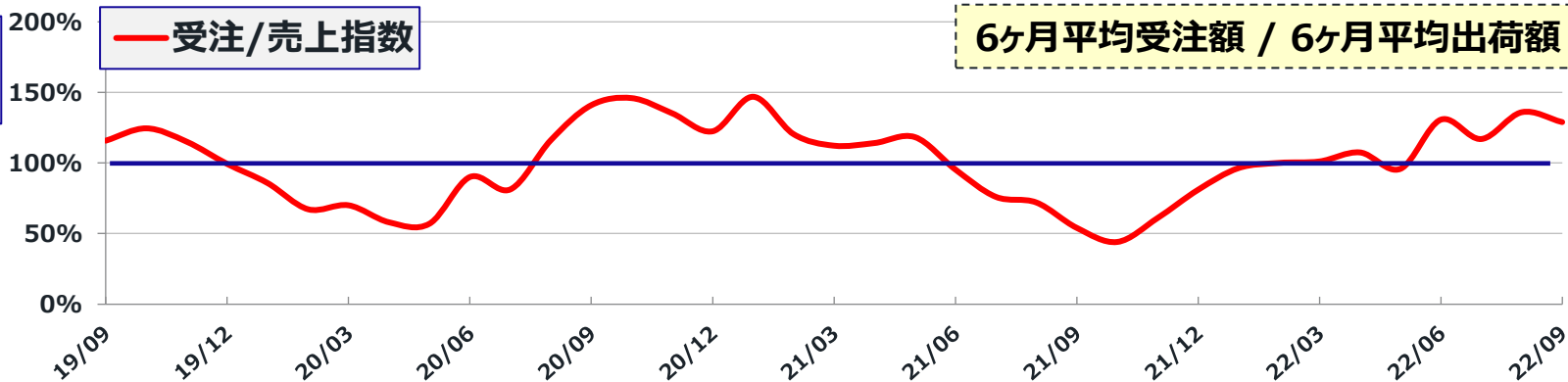
## セグメント利益



# 【参考資料】BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

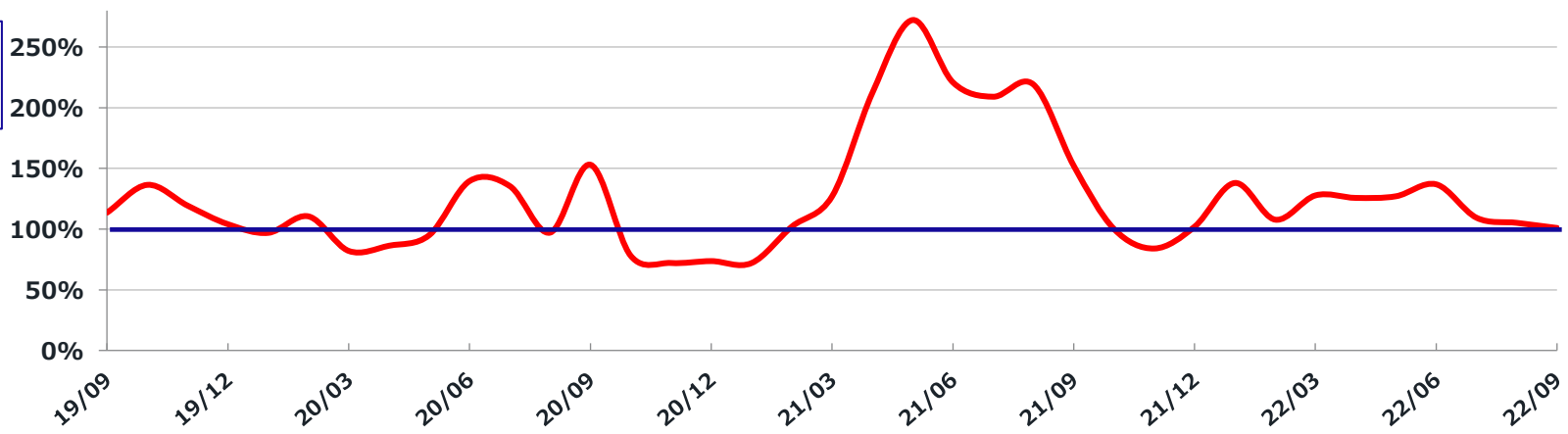
## コマツアメリカ (マイニング)

730E,830E  
860E  
930E,960E  
980E



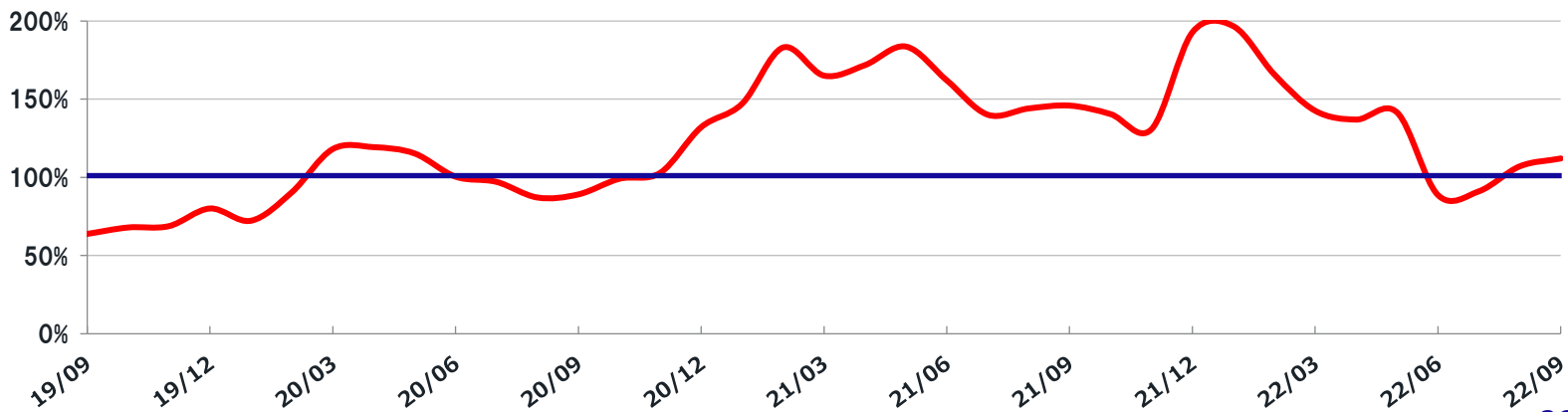
## コマツドイツ (マイニング)

PC3000  
PC4000  
PC5500  
PC7000  
PC8000



## コマツ単独 (マイニング)

HD785,HD1500  
PC2000,PC3400  
PC4000  
WA800 up  
D375A up  
GD825A up

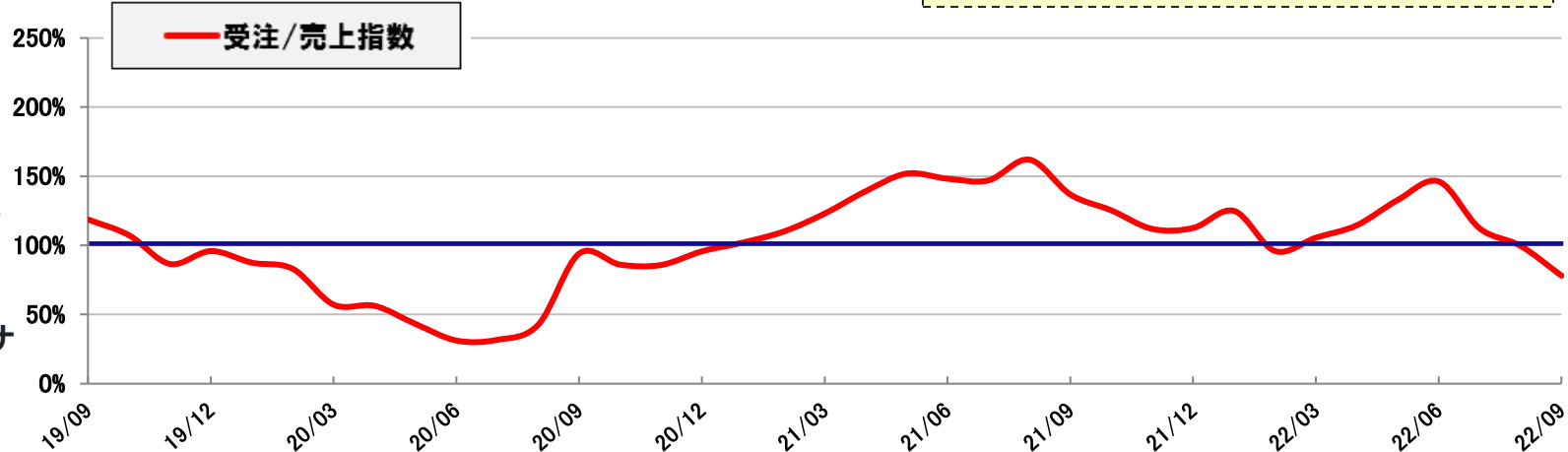


# 【参考資料】BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕KMC製の鉱山機械（本体）

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額

## KMC (マイニング)

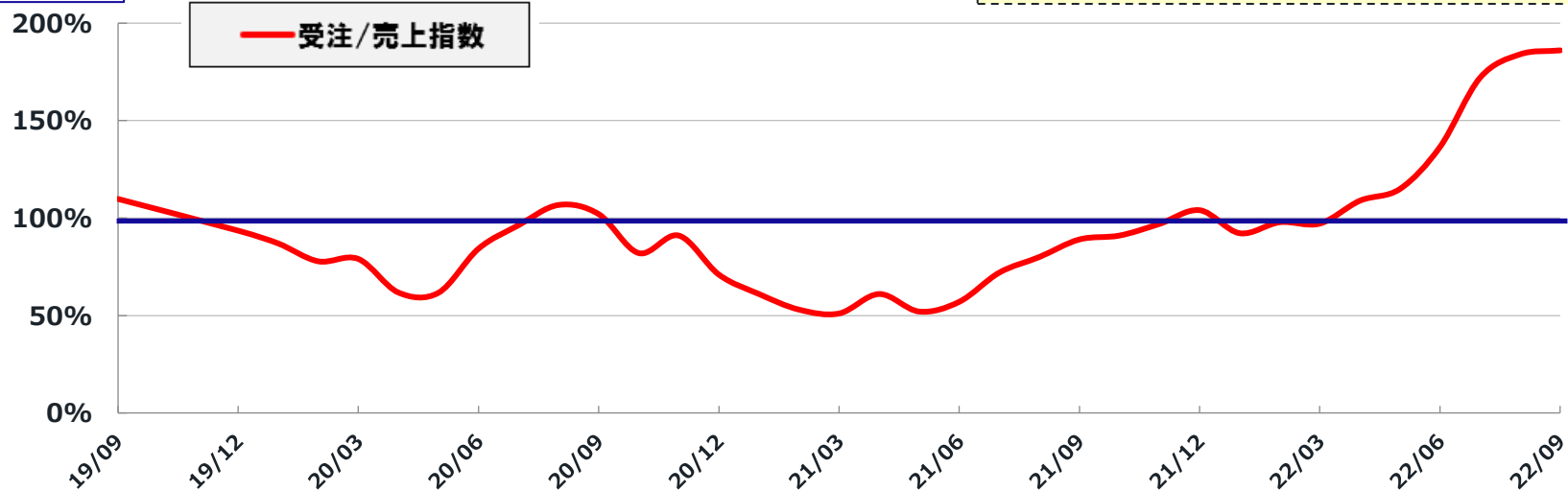
- <露天掘り>
- ロープショベル
- ブラストホールドリル
- ドラグライン他
- <坑内掘り>
- コンティニューアスマイナ
- シアラー
- ロードホールダンプ
- ドリルジャンボ他



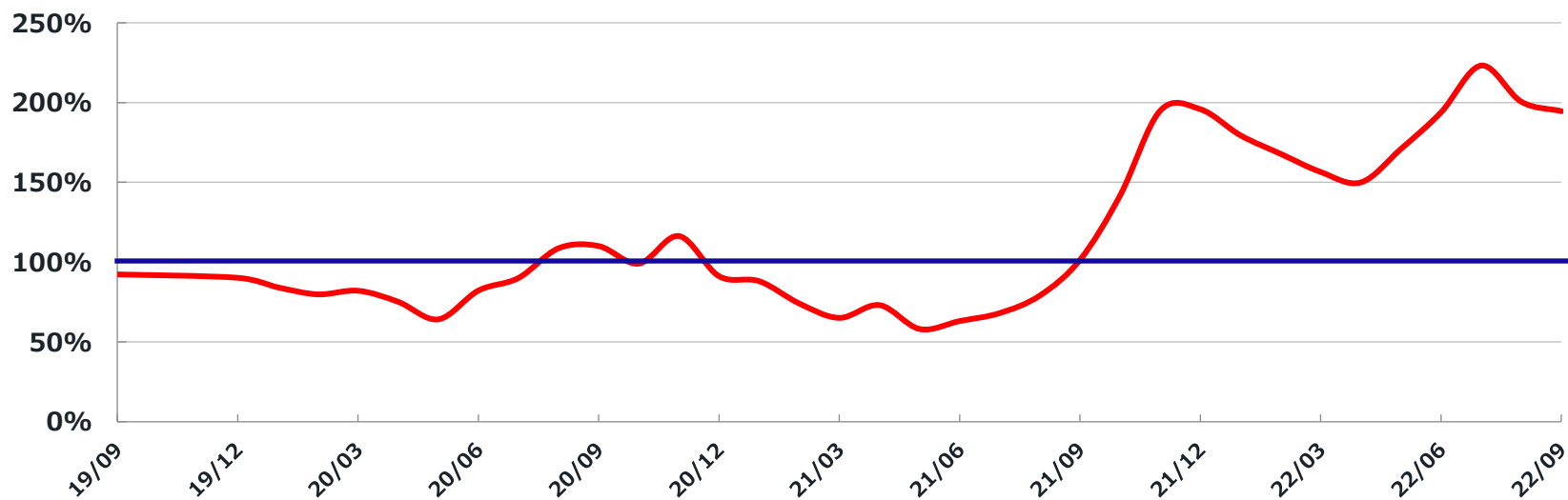
# 【参考資料】BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕産業機械

## コマツ産機

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



## コマツNTC



# 統合報告書「コマツレポート2022」を発行

・コマツは、統合報告書「コマツレポート2022 - Together, to “The Next” for sustainable growth -」を発行しました。

・4月に発表した3カ年（2022年度～2024年度）の中期経営計画で掲げる、次の100年に向けて新たな価値創造を目指す成長戦略を中心に紹介しています。

(ニュースリリース 2022年9月9日)

## 01

### コマツの概要と強みを知る

当社は1921年の創立から約100年にかけて、ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、社会ニーズに対応した商品・サービス・ソリューションを提供してきました。

当社の100年の歴史で培われた経営資源、持続的成長を実現する価値創造

イクルの  
調達体制

### 社長メッセージ



代表取締役社長 CEO  
小川 啓之

次の100年  
— 新中期経  
— Together

創立100周年  
次の100年の  
目指すための

## 02

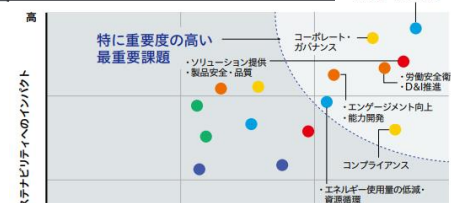
### 中期経営計画

当社は次の100年も新たな価値創造を実現するために、2022年4月より2025年3月期をゴールとする中期経営計画「DANTOTSU Value - Together to “The Next” for sustainable growth」をスタートしました。新中期経営計画の策定プロセスについてご説明するとともに、ESGの課題解決と価値向上の好循環による持続的な成長を実現するための成長戦略をご紹介します。

社長メッセージおよびCEOメッセージでは、新中期経営計画や財務戦略における思いをお伝えします。



### マテリアリティ(重要課題)



## 03

### 成長戦略によるESGの課題解決

当社は、サステナビリティ・基本方針に基づき、次の100年の事業活動を通じて社会に貢献していくことを目指しています。また当社はサステナビリティへのインパクトと、事業上の高質性の2つの両面から重要度が高い課題である「環境」「社会」「人権」「地球社会」をマテリアリティとして特定しています。マテリアリティに繋がることで、ESG課題の解決を通じて



### 事業ポートフォリオの見直し

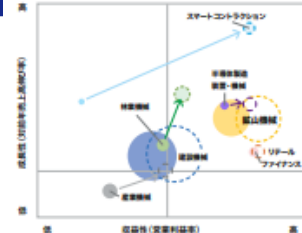
中期経営計画の策定に際し、事業ポートフォリオについて改めて整理しました。各事業セグメントが目指す中長期的方向性と課題を明確にし、中期経営計画の重点活動に反映させています。

建設・鉱山機械事業  
分野への重点投資を行う  
チェーンビジネスを拡充  
していきます。

### 事業ポートフォリオ

（2022年度中期経営計画2021年度～2023年度）

○は、各事業セグメントが目指す中長期的方向性



・建設/アグリ/アグリスは、各事業セグメント  
・スマート・コンストラクションは、特種機械  
・スマート・コンストラクションは、ソリューション

# 「bauma 2022」に出展

- ・コマツは、ドイツのミュンヘンで開催された建設機械見本市「bauma 2022」に出展しました。
- ・「安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場の実現」に向け、長年培った技術とノウハウを活かした建設・鉱山機械をはじめ、最新の商品・サービス・ソリューションを紹介しました。

(ニュースリリース 2022年9月22日)



電動建機のデモを実施



フル電動ホイールローダー

スマコン、シミュレータのデモなど、デジタルソリューションを体験



# サステナビリティ・リンク・ボンド（米ドル建無担保普通社債）の発行

- ・コマツは、サステナビリティ・リンク・ボンド（米ドル建無担保普通社債）を発行しました。
  - ・日本企業による初の外貨建てサステナビリティ・リンク・ボンドで、持続的な成長の実現を目指すサステナビリティ経営を加速していきます。
- （ニュースリリース 2022年9月30日）



発行体	Komatsu Finance America Inc.
保証体	コマツ（株式会社 小松製作所）
発行額	6億米ドル
KPI/ SPT (※)	<p>SPT1.1 2025年3月31日までに生産によるCO2(Scope1+2)排出原単位(KPI1)を2010年対比で45%削減</p> <p>SPT2.1 2025年3月31日までに製品使用によるCO2(Scope3)排出原単位(KPI2)を2010年対比で24%削減</p>

(※) SPT : Sustainability Performance Targets : 発行体が表明する、事前に設定した時間軸における KPIの測定可能な改善目標

## 【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。